

資 料 編

第一次総合計画施策体系図

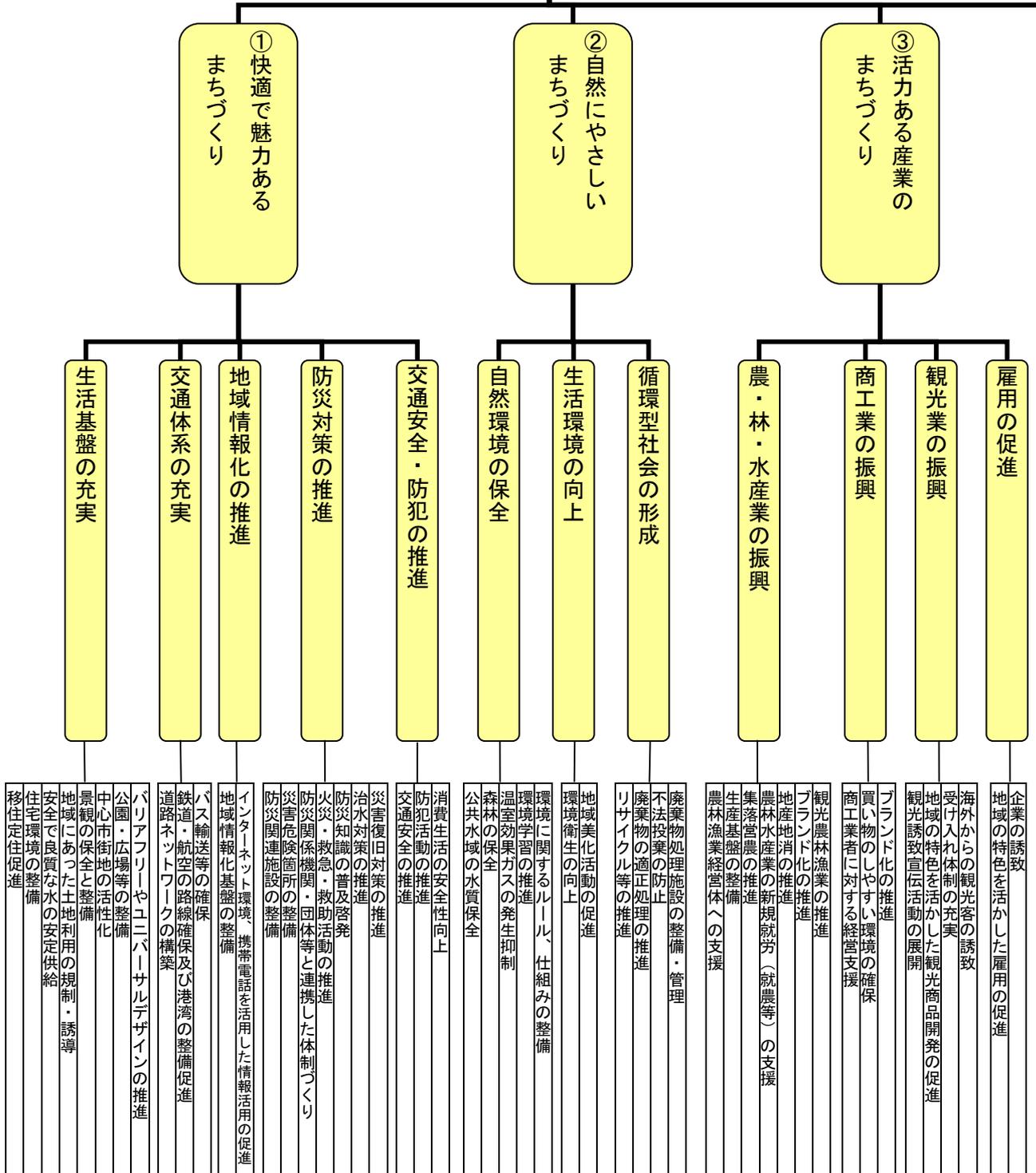
【まちづくりの基本理念】
「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」

【まちの将来像】
人と自然が輝き、人が拓く、多機能都市

政策

施策

基本事業



⑦ 新たな行政経営によるまちづくり

開かれた議会運営の推進

信頼される行政経営の推進

健全な財政運営の推進

男女共同参画の推進

人権の尊重

地域間・都市間交流の推進

市民参加によるまちづくりの推進

子育て環境の充実

地域福祉の推進

健康づくりの推進

医療体制の充実

学習機会の充実

伝統文化の保存・継承

スポーツ、芸術文化の振興

青少年の健全育成

学校教育の充実

議会運営への支援
議会に関する情報提供の充実

行政運営の透明性の確保
人材育成の推進
効果的で効率的な組織・機構・業務の構築
市の担うべき役割の重点化

財政運営の適正化に向けた制度・仕組みの改革と適正執行
歳入に見合った予算編成
市・土地開発公社有財産の適正管理と有効活用
新たな自主財源の確保
歳入の確保

あらゆる分野への男女共同参画の促進
真の男女平等の実現に向けた教育・学習の推進及び広報・啓発
女性の人権の確立を目指す環境整備

人権侵害被害者の救済
人権尊重社会の実現に向けた教育・学習の推進及び広報・啓発

交流のための民間組織・人材の育成、充実
地域間・都市間交流活動の推進
地域間・都市間交流に関する情報発信
まちづくりに参加しやすい環境づくり
まちづくりに関する意識の醸成
要保護児童等への対応
子どもの健やかな成長のための負担軽減
子育てと仕事が両立できる環境づくり
母子保健の充実
地域における子育て支援

障がい者の地域生活移行や就労支援等のサービスの推進
高齢者の自立支援サービスの推進
地域の身近な拠点づくりの推進
地域住民による支えあいの推進
生活困窮者への支援の推進

食育の推進
健康づくり活動がしやすい社会環境づくり
健康管理の実践支援
市民の健康意識の向上

保険制度の適切な運営
かかりつけ医を持つなどの市民意識の向上
医療体制の整備
学習活動の推進
学習環境づくり

文化財の活用
文化財の保存・整備
保存団体への支援
伝統文化を学ぶ
スポーツ、芸術文化団体の育成
生涯スポーツ、芸術文化に親しむための環境づくり

青少年の非行防止のための環境づくり
体験と学びを支援する環境づくり
高等学校教育の推進
幼稚園教育の推進
教育環境の整備
特色ある教育活動と開かれた学校づくり
体育・保健指導の充実
心の教育の推進
学力の向上と個性を育む教育の推進

⑥ 共生・協働のまちづくり

⑤ たすけあい支えあうまちづくり

④ 育み磨きあうまちづくり

1 用語の解説（用語の後の（ ）は掲載頁）

- ①**ふるさと達人支援プラン**（5）＝中学校の部活動や小中学校の教科、道徳、特別活動等において、豊かな知識や技能をもつ外部講師（ふるさとの達人）による専門的な指導により児童生徒の学習意欲や技術の向上を図る事業です。
- ②**小6・中1かけはしプラン**（5）＝小学校6年生から中学校1年生への教科担任による学習や生活が円滑に移行できるよう、4月～9月は中学校へ、10月～3月は小学校へ支援員を派遣し、基礎学力の定着と心に届くきめ細かな指導の充実を図ることを目的とする、いわゆる「中1ギャップ」を未然に防ぐための事業です。
- ③**キャリア教育**（6）＝子どもたちが将来の職業を意識し、自分の進路を選択・決定できる能力を育成し、社会人・職業人として自立していくために必要な職業観や勤労観を育てる教育のことです。
- ④**家庭学習60・90運動**（6）＝県教育委員会が家庭学習の習慣化を図る目的で進めている運動、基礎学力の定着を図るために、小学校では60分間、中学校では90分間を確保し、学校で学んだことの復習などを含めて家庭学習の充実を目指すものです。
- ⑤**防犯パトロール隊**（9）＝各種犯罪等の未然防止をはじめ、青少年の健全育成を図り、市民が安全に安心して暮らす環境作りを目的として地域や職場等で結成された組織です。街頭パトロール、地区内の危険箇所点検などの活動を行っています。
- ⑥**出前講座**（10）＝市の職員が市民や市内事業所等を対象に、行政の業務内容や専門知識を講義する制度です。メニューリストの中から講座内容の選択を行い、事前の申込をしていただくことにより、無料で出向き講義します。なお、スポーツ関係では、ニュースポーツ体験講座があります。
- ⑦**立志式**（17）＝かつて15歳を迎える人を大人として認め、祝ったならわしにちなんで、満14歳を迎える中学2年生を祝う式。生徒に自身の成長を自覚させ、将来への夢や志、これからの生き方を考えさせる節目としての機会ととらえています。

- ⑧江戸しぐさ(17) =江戸期の商人の生活哲学・商人道であり、現代の世相に鑑み、江戸人の知恵を今に生かそうという観点から、教育にも取り入れられています。雨の日に互いの傘を外側に傾け、ぬれないようにすれ違う「傘かしげ」、乗り合い船などで後から来る人のためにこぶし一つ分腰を浮かせて席を作る「こぶし腰浮かせ」などがあります。
- ⑨就職支援員(19) =就職未内定者が多い現状を踏まえ、企業等において人事・労務分野等で経験を積んだ人を就職支援員として配置し、就職を希望する生徒の就職支援を行います。教員が行う進路相談等の補助や生徒が希望する職種・業種の積極的な新規求人開拓などが主な業務内容です。
- ⑩耐震化率(19) =校舎や体育館などに対する、1981年の建築基準法改正以降に新しい耐震基準で建てられた棟と耐震補強済みの棟の割合のことを言います。幼稚園や小中学校、市立高校の耐震診断や耐震化については市町村が担っています。文部科学省は1981年以前の建物の耐震化について、震度6強～7程度の揺れに耐えうる強度にするよう求めています。
- ⑪一校一運動(20) =県が平成13年度から推進している「『たくましい体・強い心』子ども育成推進事業」の一環として、体力が低下傾向にある本県の児童生徒に対して、始業前・業間、放課後等の時間を活用して、一週間に2～3回、時間にして15分程度をかけて、学校が特色ある活動として位置付けている運動種目(例えば、縄跳び、ランニング、一輪車など)を実施し、体力向上に結び付けようとする取組です。
- ⑫「親子20分間読書運動」(21) =昭和34年、当時鹿児島県立図書館長であった椋嶋十氏が、「教科書以外の本を子供が20分間位読むのを、母が傍らに座って静かに聞く。」という運動を提唱されました。その後、この運動が県立図書館の呼びかけにより、「親子20分間読書運動」として昭和35年より鹿児島県下に広まり、やがて全国に拡大していきました。
- ⑬霧島国際音楽祭(21) =霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)を主会場として、国内外

で活躍する講師陣による講習会と著名なアーティストの出演するコンサートが数多く開催される国内有数の音楽祭です。

⑭^{おおすみのくに}大隅国 (22) =和銅6年(713)4月に、日向国であった「^{きもつき}肝付・^{そお}贈於・^{おおすみ}大隅・^{あいら}始權」の四郡を割いて大隅国を置きました。大隅国を建国した意図は、広大な日向国を分割統治することで奈良朝廷の律令制度の確立と地方の支配強化をねらったものと思われます。

⑮霧島ジオパーク構想 (22) =ジオパークとは、地質学的に重要で貴重な、あるいは美しい地球活動の遺産が多数存在する自然公園です。現在、霧島連山周辺の自治体と民間団体及び宮崎・鹿児島県の両県で組織する「霧島ジオパーク推進連絡協議会」では、霧島連山が持つ火山や自然のポテンシャルはジオパークとして世界にも充分通用すると考え、特色と活力のある地域づくりと地域振興を目的に、ジオパーク認定に向けて準備を進めています。

⑯生涯学習情報バンク (22) =市民が「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習環境を整えるため、指導者の情報や学習施設の情報、サークル等の情報、講座等の内容など、市民の学習欲求を満たせるよう情報の一元化を進め、活用しやすいようにするものです。

⑰生涯学習社会 (23) =人が社会の様々な分野で生き生きと活躍していくためには、その生涯を通じ、学校教育や社会教育をはじめ多様な学習の場や機会を活用し、適時、仕事や生活に必要な知識や技能を身につける必要があります。さらに、豊かで生きがいのある人生を送るうえでも、ライフサイクルに応じて、その興味・関心等に即した多様な学習活動に親しむことが求められます。このように人々が求める学習に親しむことができ、また、習得した学習内容を生かせるような社会を生涯学習社会ととらえています。

⑱移動図書館(車) (23) =本棚を備えたバス等に本を積んで図書館サービスを行うこと。図書館が近くにない地域などを巡回し、地域住民に図書館サービスを行います。

⑲学力向上プラン (24) =児童生徒の学力向上を目ざし、学校の実態に即した目標を設定した

上で、具体的な取組を行っていくための計画。また、適切にその取組を評価しながら、よりよい指導のあり方を検討・改善していくための指針としても活用します。

⑳外国語指導助手（ALT）（25）＝外国語指導助手(Assistant Language Teacher)の略語。語学指導等を伴う外国語青年招致事業において招へいされた外国人の中で選抜された者が、日本の教師と協力してティーム・ティーチング（協同授業）等を行います。

21「基礎・基本」定着度調査（25）＝本県の小学校5年生と中学校1、2年生の全児童生徒が、基礎学力（社会生活を営む上で最低限必要な知識や技能等）を確実に身に付けているかどうか調べるための調査。調査内容は小学校が国語、社会、算数、理科の4教科、中学校が国語、社会、数学、理科、英語の5教科です。

22学習障害（LD）（25）＝（Learning Disabilities）基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指します。

23注意欠陥／多動性障害（ADHD）（25）＝（Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたします。

24高機能自閉症（26）＝（High-Functioning Autism）3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいいます。

25スクールカウンセラー（26）＝臨床心理士など、児童生徒の臨床心理に関して専門的な知識及び経験を有する者。各学校で悩みを抱える児童生徒や保護者に対して、専門的な相談に応じることが主な業務内容です。

26体力運動能力調査（27）＝児童生徒の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育・スポーツ指導の基礎資料を得るために行う調査です。握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの8種目

で実施されます。

27 20mシャトルラン (27) = 体力・運動能力調査の持久力を測定する項目です。20m間隔で平行に引かれた2本の線を合図音に合わせて走って往復し、合図音内で往復できた回数を記録とします。

28 「早寝早起き朝ごはん」運動 (28) = 日本PTA全国協議会と文部科学省等が中心になって「子どもたちの正しい生活リズムの確立」を目的に提唱し、平成18年度から始まった国民運動のことです。

29 学校評価 (自己評価、学校関係者評価等) (28) = 学校教育の充実を目ざし、教育活動等の状況について評価を行い、必要な支援や改善を行って教育の水準の向上と保証を図ることを目的としています。通常、学校職員・児童生徒・保護者等による「自己評価」と、それらを学校が選任した学校関係者が評価する「学校関係者評価」を併せて学校評価と呼んでいます。

30 幼小連携、幼保小連携 (30) = 幼児教育と小学校教育のそれぞれの目的を明確にし、生涯にわたる成長の基礎を養う視点から、幼児教育と小学校教育のスムーズな接続を行うために、幼児・児童の交流や指導者の交流を進めることです。

31 単式授業 (30) = 単一の学年で編成する形態を単式授業と呼び、複数の学年が1つの教室で同時に学ぶ形態を複式授業と呼びます。

32 「道義高揚・豊かな心推進」宣言都市 (31) = 人の行うべき正しい道が道義です。礼儀心の低下や人権の軽視、青少年の非行が目立ち、地域社会においても連帯感や協調性が薄れてきています。このような社会現象を市民一人一人が自覚し豊かな心を育むため、自主的学習や実践活動の推進を目指し「道義高揚・豊かな心推進宣言」をしました。

33 家訓コンクール (33) = 家訓とは、厳密に言うと古くからその家に伝わる「家庭の教え」、「家の憲法」ということです。ただ、従来の堅苦しいイメージの“家訓”ではなく、現在の混沌とした世の中で家族を安心や幸せに導く“指針”となるような“我が家の約束”

や“我が家の指針”を募集するものです。

34 あいさつ運動モデル校区 (33) = 校区に住む青少年は校区で責任をもって育成することとし、家庭・地域・学校の3者による連携を図り、市民全体であいさつ運動に取り組む必要があります。そこで、校区の実情に即したあいさつ運動を積極的に展開している学校区をモデル校区と定めています。

35 ふるさと霧島カルタ (33) = 霧島市の豊かな自然、観光資源、歴史的遺産や産業等のふるさとの魅力を市民一人一人が認識し、郷土に対する愛着を深めるため、読み句や絵札に使用する絵画を公募し、市民参加により制作したカルタです。

36 上野原縄文の森 (35) = 錦江湾を望む上野原台地に、縄文時代早期前葉（約9,500年前）の地層から、2条の道筋に沿う52棟の竪穴住居を中心とした集落跡が発見されました。住居群には調理施設である、39基の集石遺構や16基の連穴土坑も発見され、南九州における定住化初期の様相を典型的に示す大集落であり、日本列島の縄文時代の開始期の遺跡として、重要な遺跡です。（国指定史跡）また、縄文時代早期後葉（約7,500年前）の壺型土器を含む土器・石器類、土偶や耳飾りなど多彩な遺物は、早期における南九州の文化の先進性を物語る貴重な学術資料となっています。（国重要文化財）

37 健康運動普及推進員 (35) = 市民が中心となる健康づくりを目指して、地域に密着した健康づくりや運動の知識を普及し、市民自ら健康管理ができるように支援する活動を行う健康ボランティアです。霧島市には、現在 92 人の推進員が、身近にできる地域のウォーキングやダンベル、タオル体操の普及などに努めています。

38 食生活改善推進員 (35) = 「私たちの健康は、私たちの手で」をスローガンに、住民の健康づくりを食の分野から推進し、「ヘルスマイト」の愛称で活動している健康ボランティアです。霧島市には、現在、134 名の推進員が地域の料理教室等を開催し、普及に努めています。

39 総合型地域スポーツクラブ (36) =地域において、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができるようにするために、地域住民が主役となって自ら運営・管理をするスポーツクラブです。いろいろな種目を様々な人たちが、興味・関心や競技レベルを問わず、それぞれのスタイルで楽しむことができます。

40 体育指導委員 (37) =市町村教育委員会が委嘱する、社会体育の指導者です。スポーツに関する深い関心と理解を持ち、その活動を行うための熱意と能力があり、住民に対してスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導、助言を行います。

41 真米甌穴群 (39) =真米甌穴群は天降川上流（塩浸水力発電所取水口から下流へ約四キロメートル）の牧園町真米地区にあります。始良カルデラ噴出物（約2万5千年前）である軟弱な溶結凝灰岩の河床が、流水作用により様々な甌穴を創り出しており、甌穴の形成変遷が初期の段階からそれぞれの段階を見ることができ、学術的に見てもたいへん貴重です。

42 カワゴケソウ (39) =カワゴケソウは熱帯から亜熱帯の河川の急流に生息する種子植物です。日本では屋久島と鹿児島県本土、宮崎県の一部に見られる珍しい植物です。急流の岩盤や大きな石に固着して生息しています。葉は針状で茎とともに退化し、代わって根が葉状となって発達して光合成をしています。生育環境が極めて水質の良い清流の緩やかな流れの部分に限られるため、河川の水質汚染など環境変化の指標線物になっています。（他地域のカワゴケソウは県指定天然記念物。）

43 公民館定期講座 (41) =公民館定期講座とは、市内7拠点公民館において、開催日を事前に決めて年間を通して定期的に行っている学習講座のことです。市内全域で6月から2月の間に概ね毎月1、2回程度の学習を行っています。講座内容は各地区拠点公民館によって異なり、市民の方はどこの公民館の講座であっても受講できるようになっています。

44短期講座（41）＝公民館定期講座と異なり、市民のニーズに対応し、また、地域にあった学習活動の推進を図るために地域の特性を活かした講座を開設しています。開設回数は5回程度とし、3ヶ月程度で修了する講座です。

45ボランティアセンター（42）＝市民にボランティア活動に関する理解と関心を深めていただくために開設しています。コーディネーターを配置し、人材登録や活動希望の人、また、ボランティアの受け入れを希望する団体等の相談や紹介などの業務を行っています。

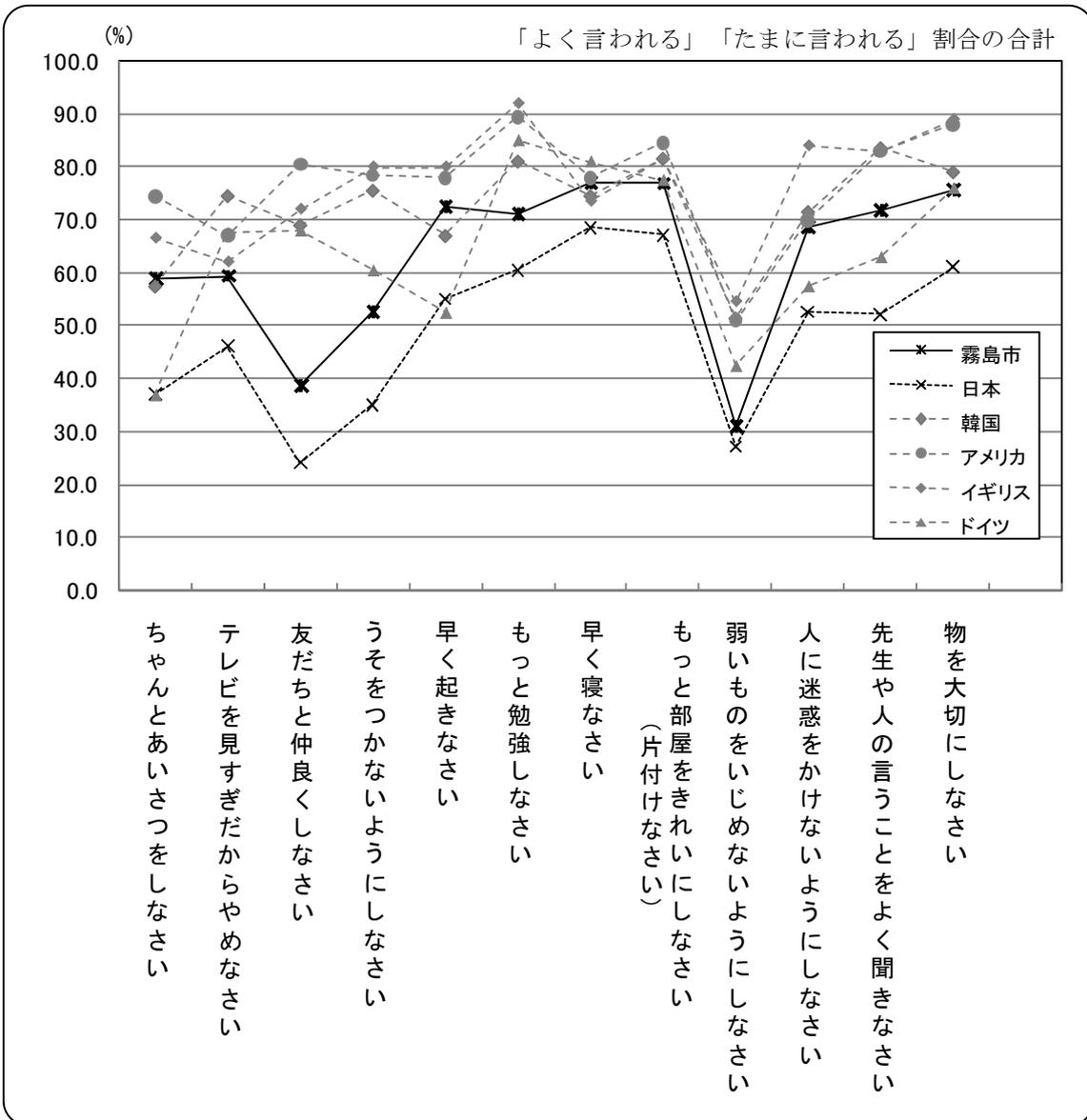
46 進路保障（42）＝子どもたちの進学や就職を、単にその子に応じてどのように探して指導するかということではなく、子どもの未来を保障するということが必要になってきます。子どもたちの将来の生き方に、それまでの教育活動の成果と課題が端的に現れるという観点から、進路保障という言葉を使用しています。

47 ブックスタート（43）＝1992年英国で始まった、赤ちゃんのまわりで楽しく温かい一時が持たれることを願い、一人ひとりの赤ちゃんに絵本を手渡す活動です。日本には2000年に紹介されました。霧島市では全市的には平成19年度から取り組んでいます。

2 市民教育意識調査結果

(1) 児童、生徒

問2. あなたはお父さんやお母さんから次のことを言われますか。

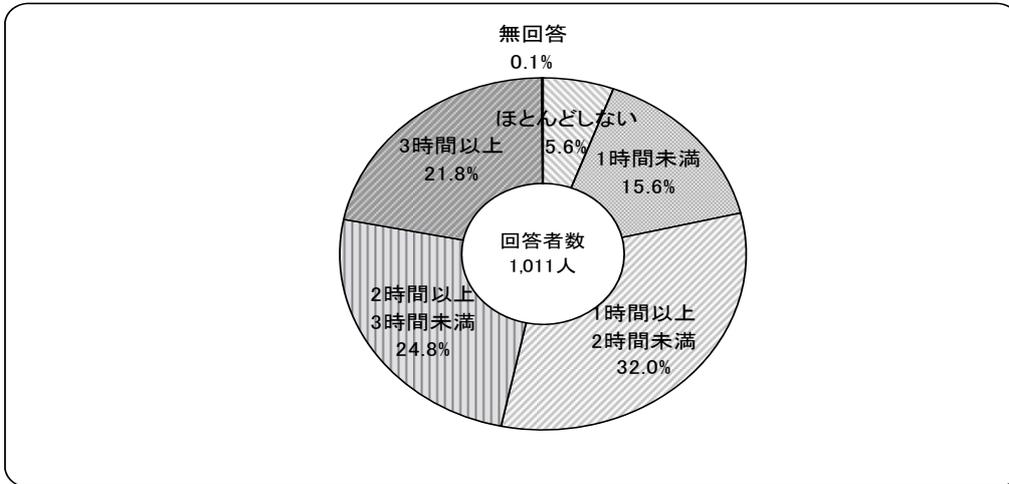


* 全国集計は、「子どもの体験活動等に関する国際比較調査 2000年」(文部科学省)による。

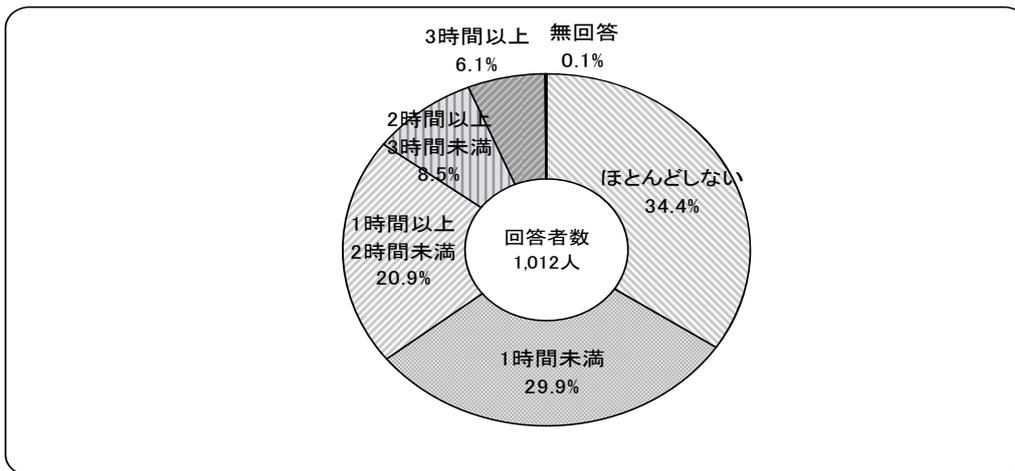
本市は日本平均と同様の傾向を示しているが、ほとんどの項目で両親から言われる割合(「よく言われる」「たまに言われる」の合計)が日本平均よりも高くなっている。また、「友だちと仲良くしなさい」「弱いものをいじめないようにしなさい」の2項目では本市の平均は40%を下回っている。海外との比較でも、概ね同様の傾向を示しているが、「友だちと仲良くしなさい」と言われる割合は海外では高く、いずれの国も60%を超えている。また、海外では「もっと勉強しなさい」言われる割合が高く、いずれの国も80%を超えている。

問4. あなたは、ふだん次のことを一日にどれぐらいしますか。

4-1 テレビやビデオ（DVD）を見る



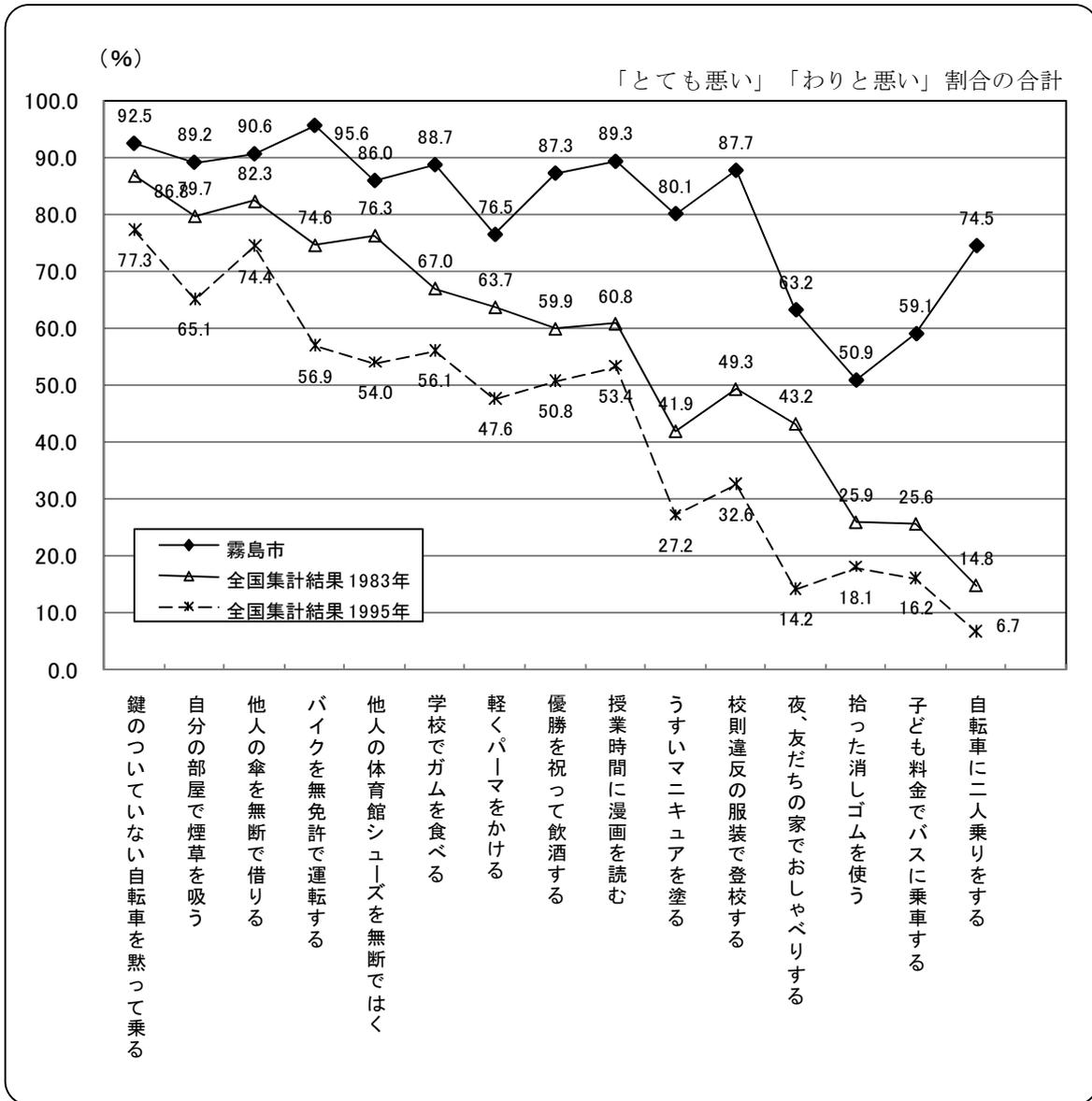
4-2 ゲームで遊ぶ（テレビゲームやパソコンゲーム等）



“テレビやビデオ（DVD）を見る時間”について、「1時間以上2時間未満」と答えた人の割合が32.0%と最も高く、次いで「2時間以上3時間未満」24.8%、「3時間以上」21.8%となっている。

“ゲームで遊ぶ（テレビゲームやパソコンゲーム等）”について、「ほとんどしない」と答えた人の割合が34.4%と最も高く、次いで「1時間未満」29.9%、「1時間以上2時間未満」20.9%となっている。

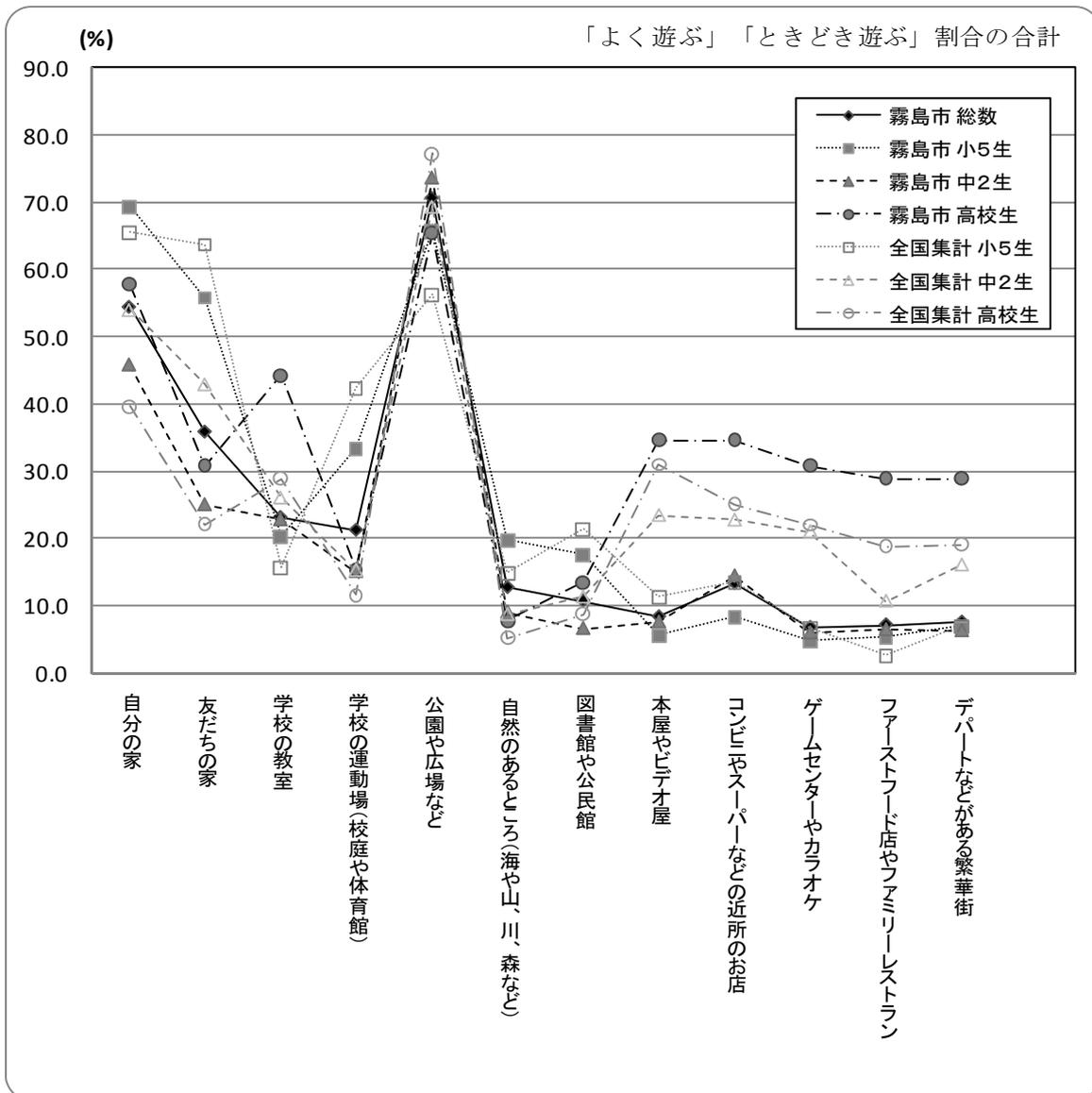
問5. あなたは次のような行動をどう思いますか。



* 全国平均は、「モノグラフ中学生（2年生）の世界 1983年、1995年」（文部科学省）による。

1995年の全国平均は、すべての項目で悪いと思う割合（「とても悪い」「わりと悪い」の合計）が1983年の平均を下回っている。特に、「夜、友だちの家でおしゃべりする」及び「他人の体育館シューズを無断ではなく」は20ポイント以上悪いと思う割合が低下している。本市の平均は、すべての項目で悪いと思う割合が50%を超えるとともに、全国平均を上回っている。1995年の全国平均と比較すると、「自転車に二人乗りをする」「夜、友だちの家でおしゃべりする」「うすいマニキュアを塗る」の3項目では50ポイントを超える開きがみられる。

問6. 平日（学校がある日）の放課後に、あなたは次のような場所で遊びますか。



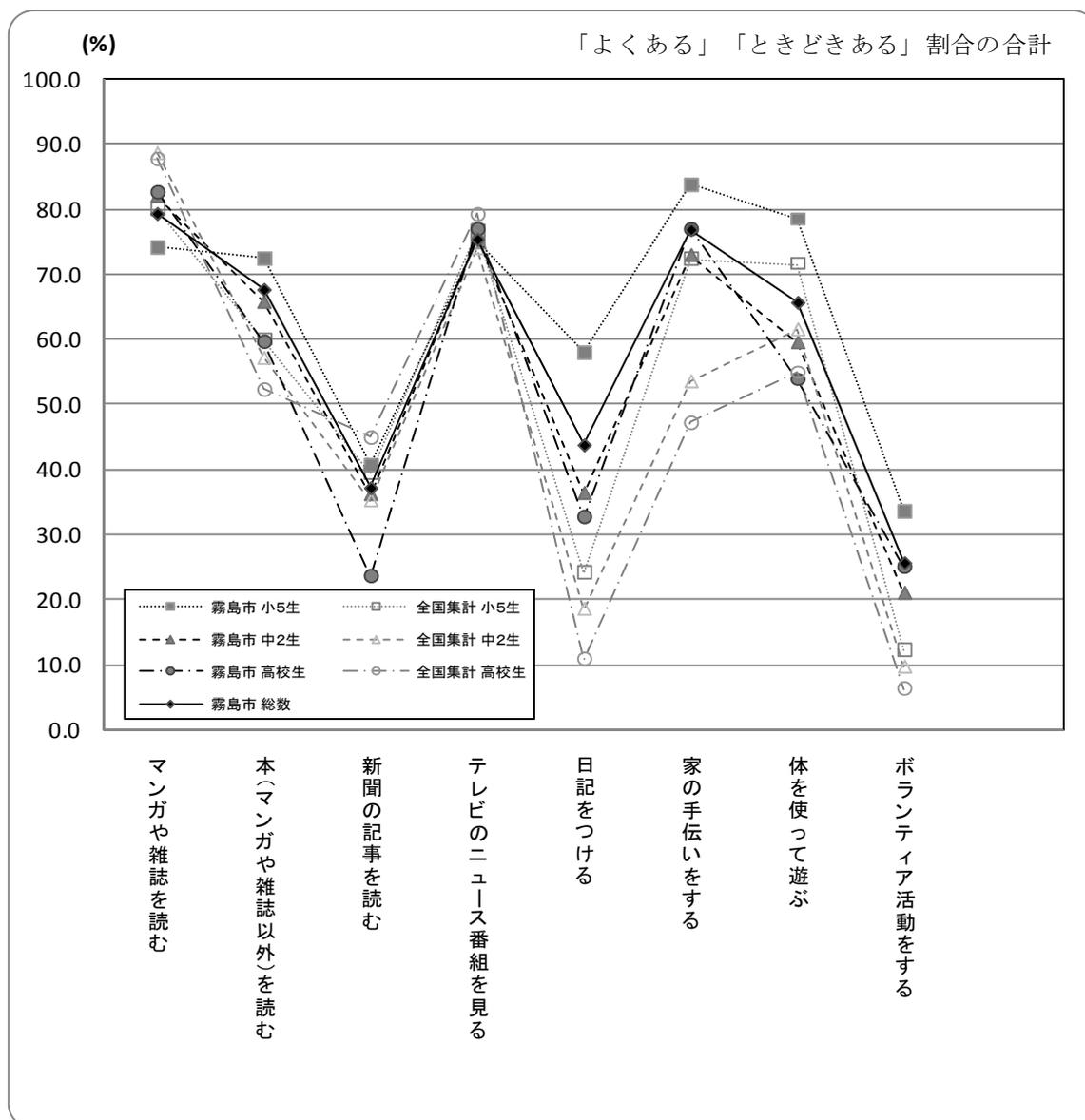
* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

高校生は、「公園や広場など」を除き全国平均よりも各種施設等で遊ぶ割合(「よく遊ぶ」「ときどき遊ぶ」の合計)が高くなっている。

小学生及び中学生は、全国平均を下回る項目が多く、中学生では「公園や広場など」「自然のあるところ(海や山、川、森など)」を除き各種施設等で遊ぶ割合が全国平均を下回っている。

また、小学生では全国平均と10ポイント以下の差となっている。全国平均と10ポイント以上差がある項目は、中学生ではすべて全国平均より低くなっているが、高校生では4項目中3項目が全国平均よりも高くなっている。

問7. あなたは、ふだん次のことをすることがどれぐらいありますか。

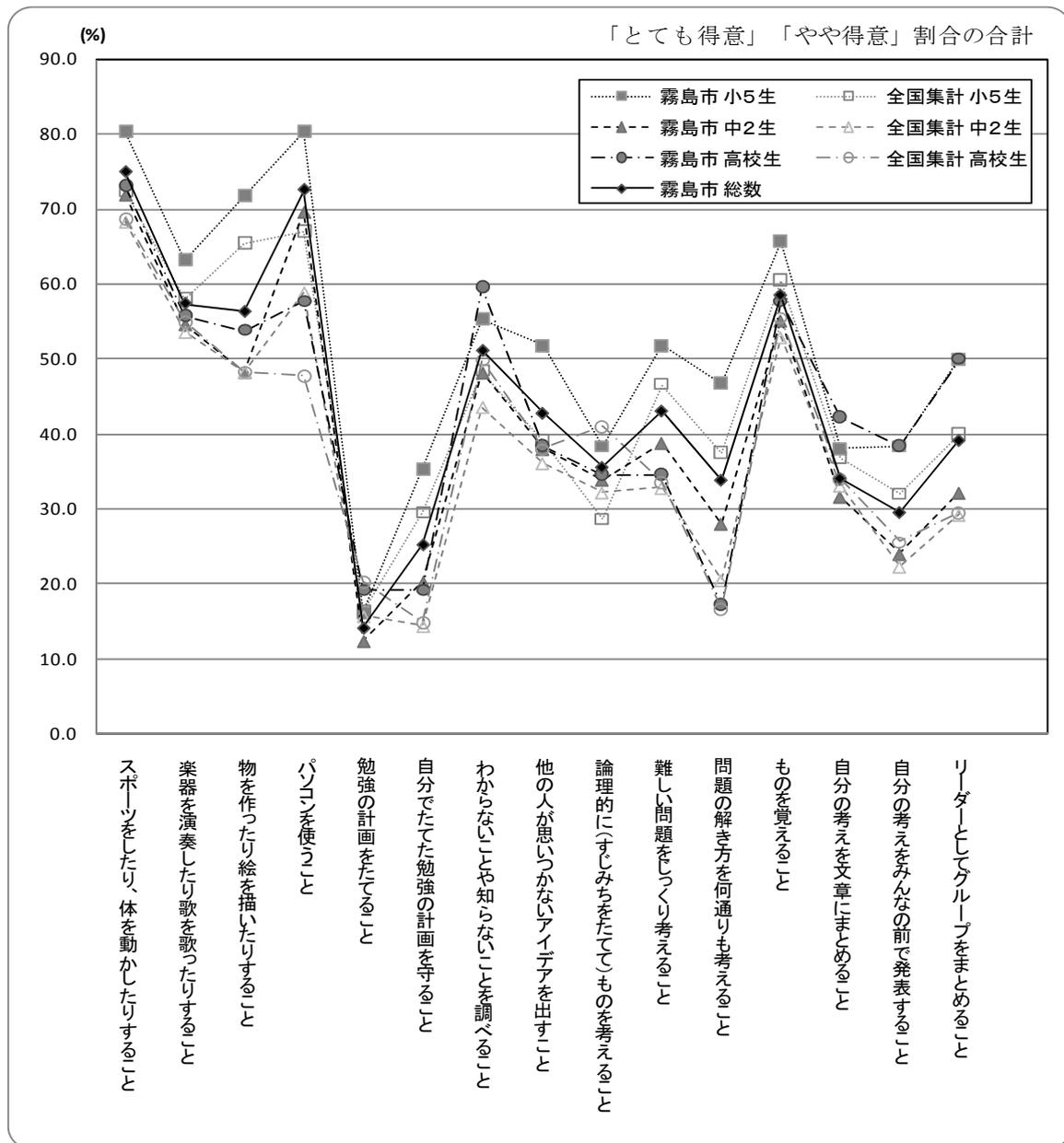


* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と同様の傾向を示しているが、項目によって開きに差がみられる。「日記をつける」「家の手伝いをする」「ボランティア活動をする」の3項目では本市の平均が全国平均を10ポイント以上上回っている。

また、全国平均に比べて10ポイント以上低い項目は、高校生の「新聞の記事を読む」の割合(-21.3ポイント)のみで、特徴的な傾向を示している。

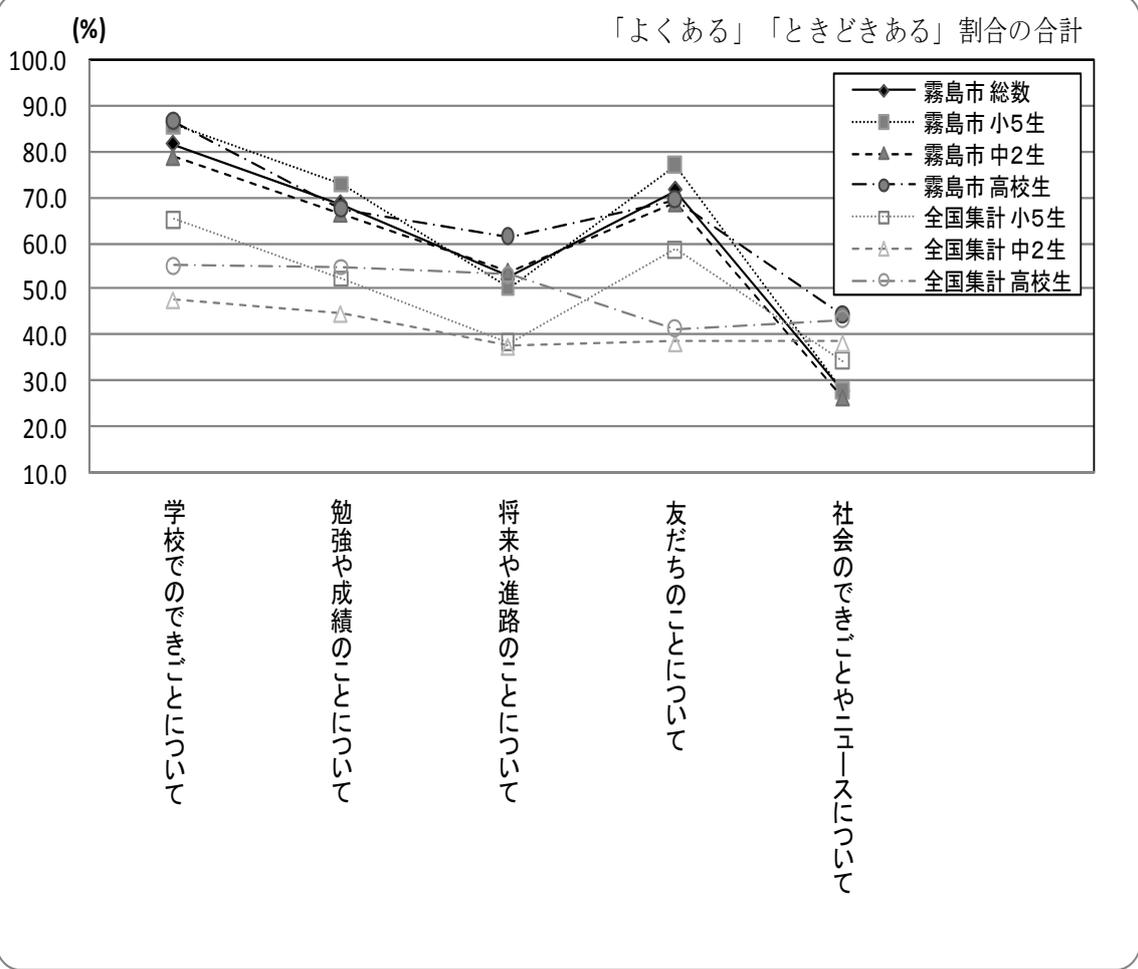
問9. あなたは次のことが得意ですか。苦手ですか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(パネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向にある。
 また、いずれの学生種別でもほとんどの項目で得意とする割合(「とても得意」「やや得意」の合計)が全国平均を上回っている。一方、「勉強の計画をたてること」は、いずれの学生種別でも全国平均を下回っている。

問 1 1. あなたは次のことについて、お父さんやお母さんとどのくらい話をしますか。

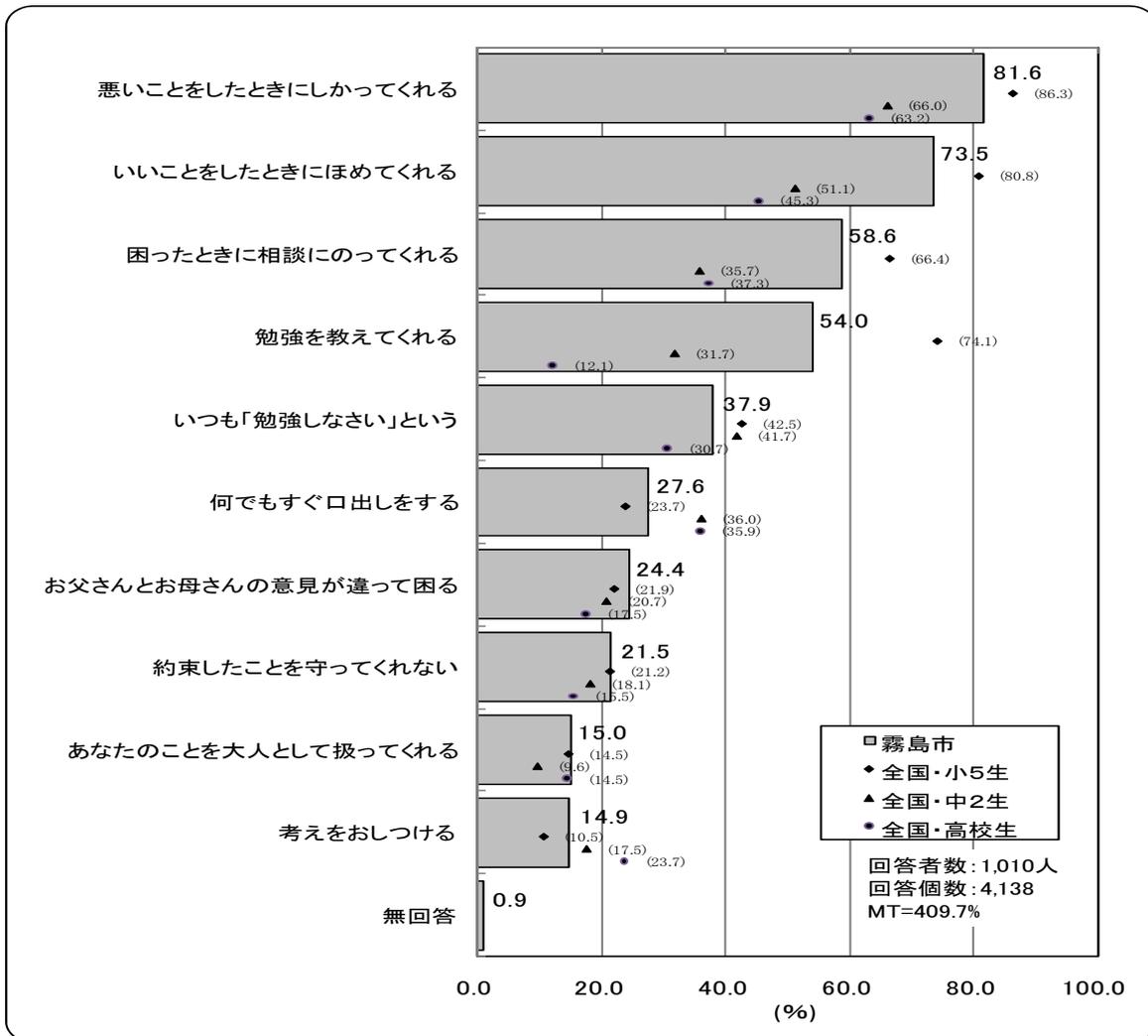


* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向にあるが、「社会のできごとやニュースについて」の項目を除き、両親と話をする割合（「よくある」「ときどきある」の合計）が全国平均を大きく上回っている。

中学生は、5項目のうち4項目で両親と話をする割合が最も低くなっている。

問12. 親との関係について、次のことはあてはまりますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

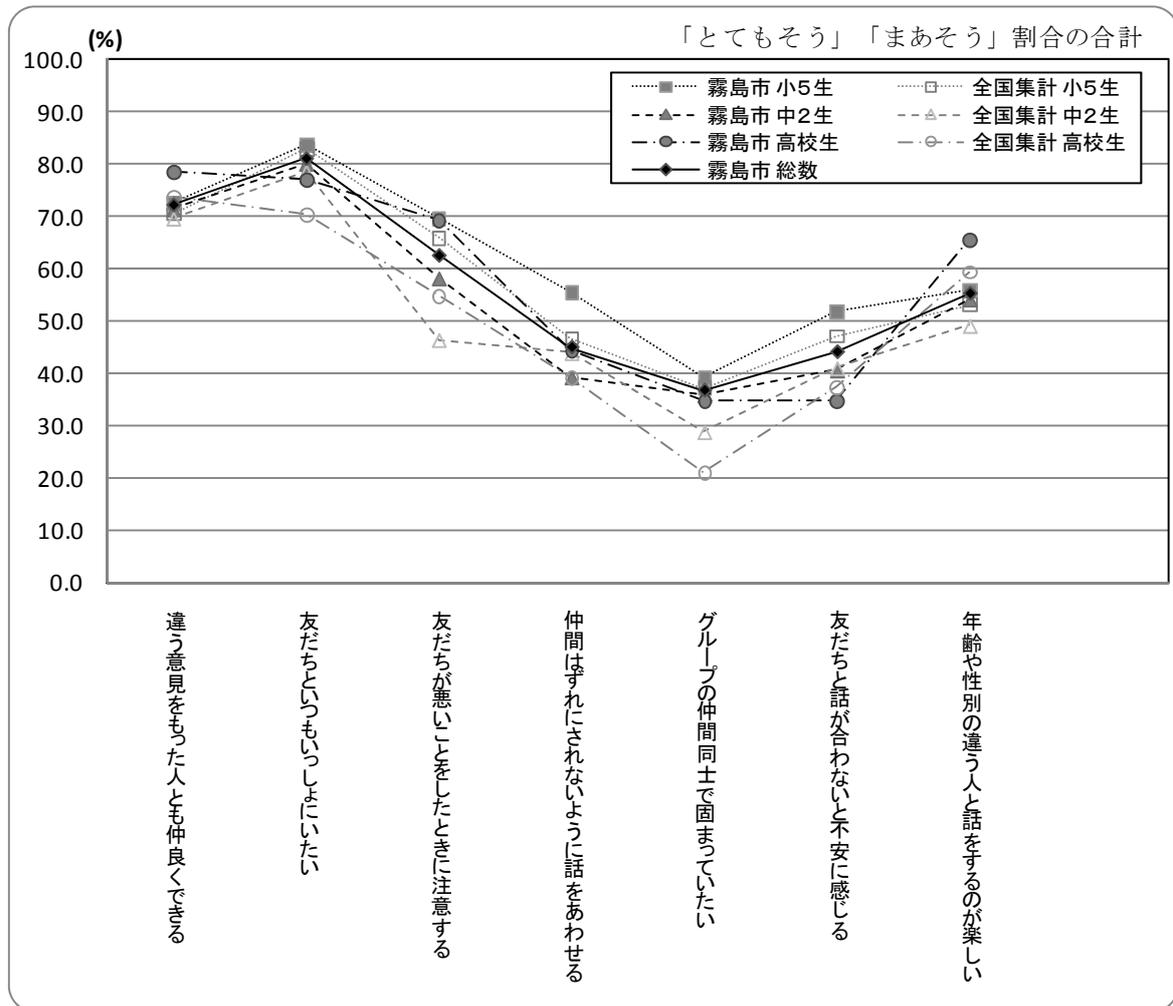
“親との関係”について、「悪いことをしたときにしかってくれる」と答えた人の割合(複数回答)が81.6%と最も高く、次いで「いいことをしたときにほめてくれる」73.5%、「困ったときに相談にのってくれる」58.6%、「勉強を教えてくれる」54.0%となっている。その他の項目はいずれも30%未満となっている。

性別では、男女ともに同様の傾向を示している。

学生種別では、いずれの種別でも概ね同様の傾向を示しているが、小学生は「いいことをしたときにほめてくれる」と答えた人の割合が87.3%で最も高くなっている。

全国集計との比較では、いずれの学年も概ね同様の傾向を示しているが、中学生及び高校生は上位の3項目で全国平均よりも10ポイント以上高くなっている。

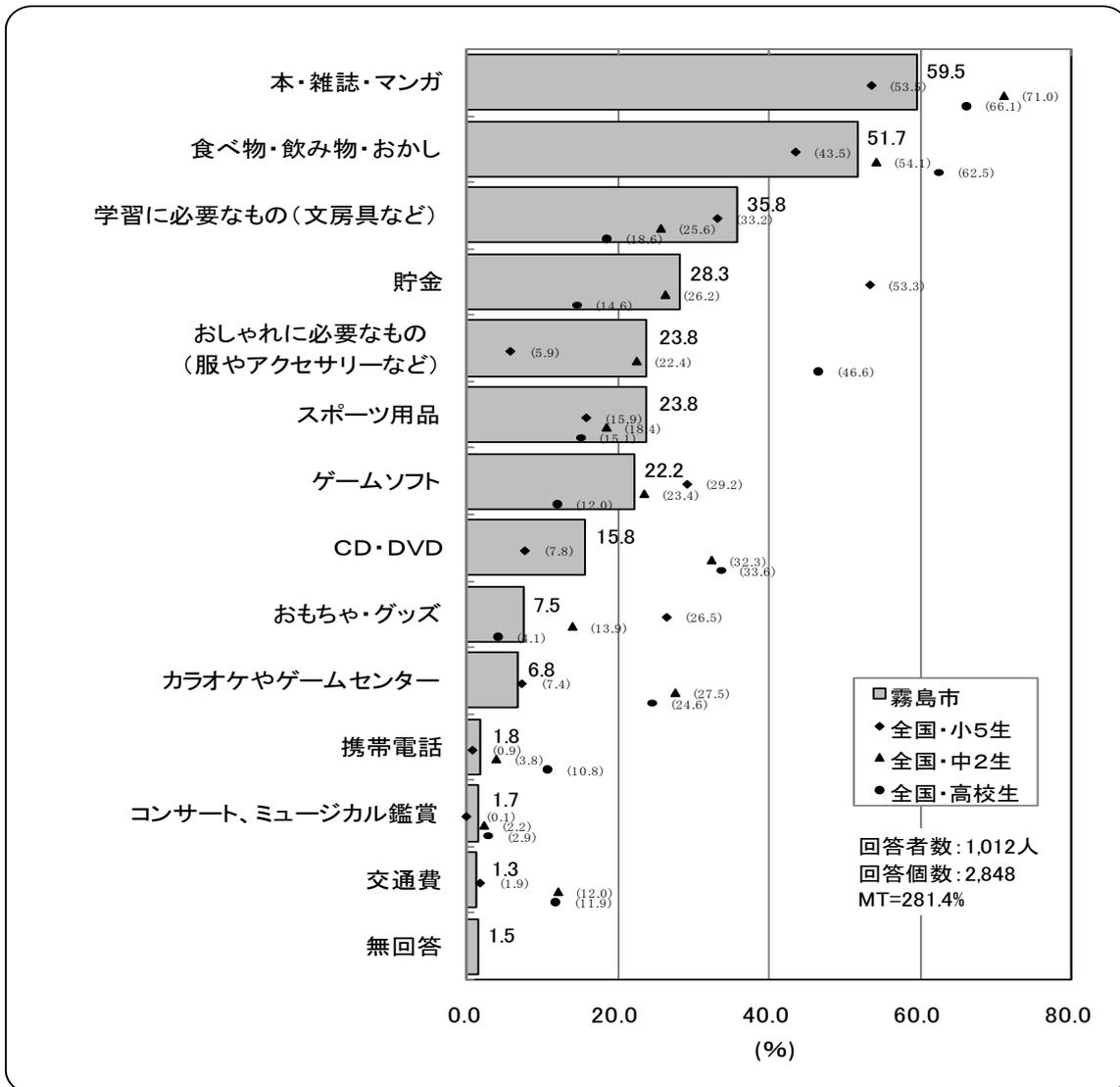
問14. 友だちとの関係について、次のことはどのくらいありますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向にある。
 小学生は、すべての項目で全国平均よりそう思う割合(「とてもそう」「まあそう」の合計)が高くなっているが、全国平均との差は少なく、いずれも10ポイント以内の差となっている。
 中学生及び高校生は、数項目で全国平均よりそう思う割合が低くなっているが、「友だちが悪いことをしたときに注意する」(中学生・高校生)、「グループの仲間同士で固まっていたい」(高校生)では、そう思う割合が全国平均よりも10ポイント以上高くなっている。

問15. あなたは何におこづかい（お金）を使っていますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」（ベネッセ教育研究開発センター）による。

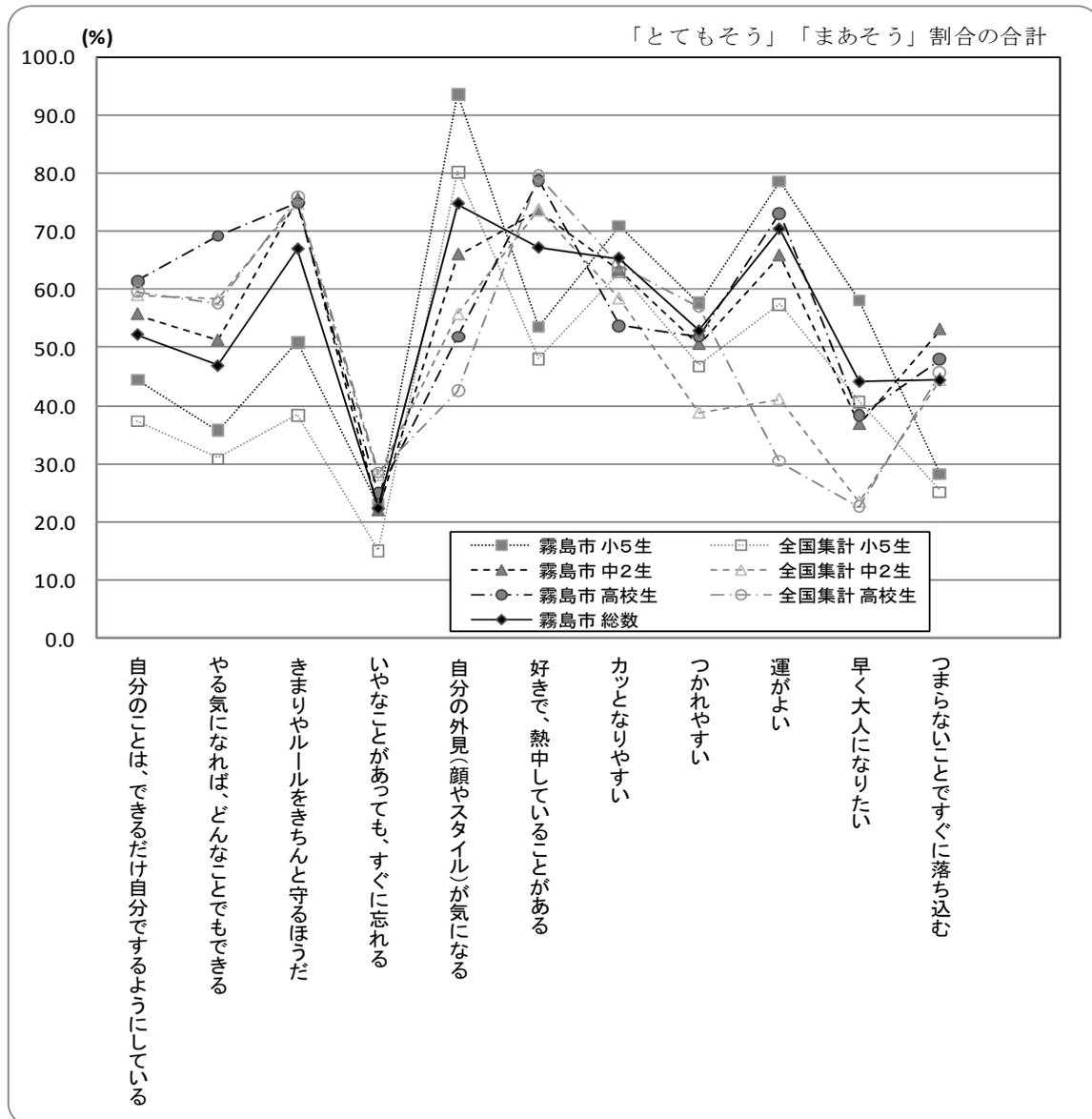
“あなたは何におこづかい（お金）を使っていますか”について、「本・雑誌・マンガ」と答えた人の割合（複数回答）が59.5%と最も高く、次いで「食べ物・飲み物・おかし」51.7%、「学習に必要なもの（文房具など）」35.8%となっている。その他の項目はいずれも30%未満となっている。

性別では、男子は「食べ物・飲み物・おかし」が59.4%と最も高く、女子は「本・雑誌・マンガ」が64.5%と最も高く、「おしゃれに必要なもの」の割合も男子に比べて高くなっている。

学生種別では、小学生及び高校生は「食べ物・飲み物・おかし」が最も高く、中学生は「本・雑誌・マンガ」が最も高くなっている。その他の項目では、高校生の「おしゃれに必要なもの」の割合が50%を超えている。

全国集計との比較では、いずれの学生種別も概ね全国平均と同様の割合を示しているが、小学生では「貯金」が、中学生では「CD・DVD」「カラオケやゲームセンター」「交通費」が、高校生では「CD・DVD」の項目が全国平均を10ポイント以上下回っている。

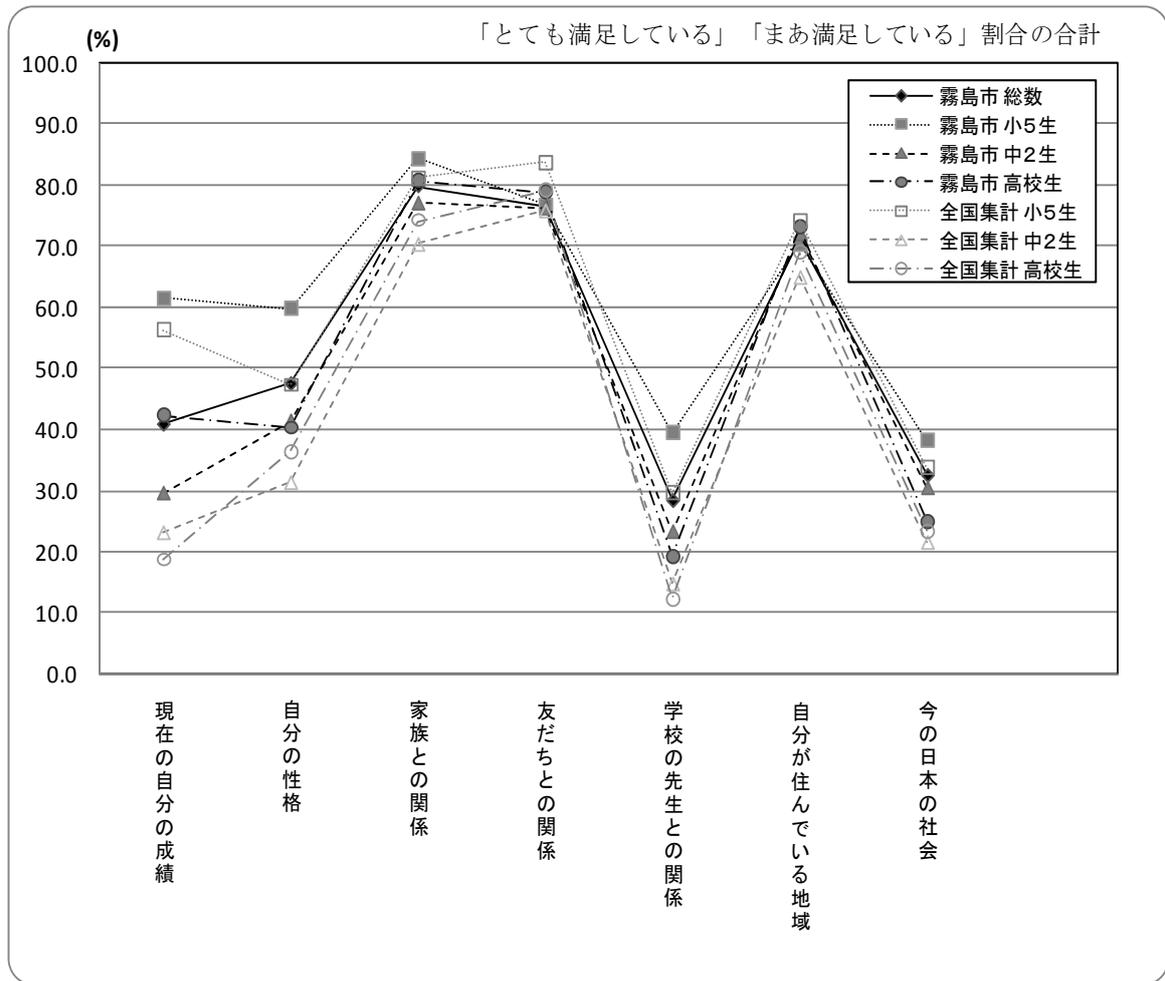
問17. あなた自身のことについて、次のことはあてはまりますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は、小学生ではすべての項目でそう思う割合(「とてもそう」「まあそう」の合計)全国平均より高くなっており、中学生及び高校生では項目によってばらつきがみられる。また、「運がよい」「早く大人になりたい」の項目ではそう思う割合がすべての学生種別で全国平均より10ポイント以上高くなっている。

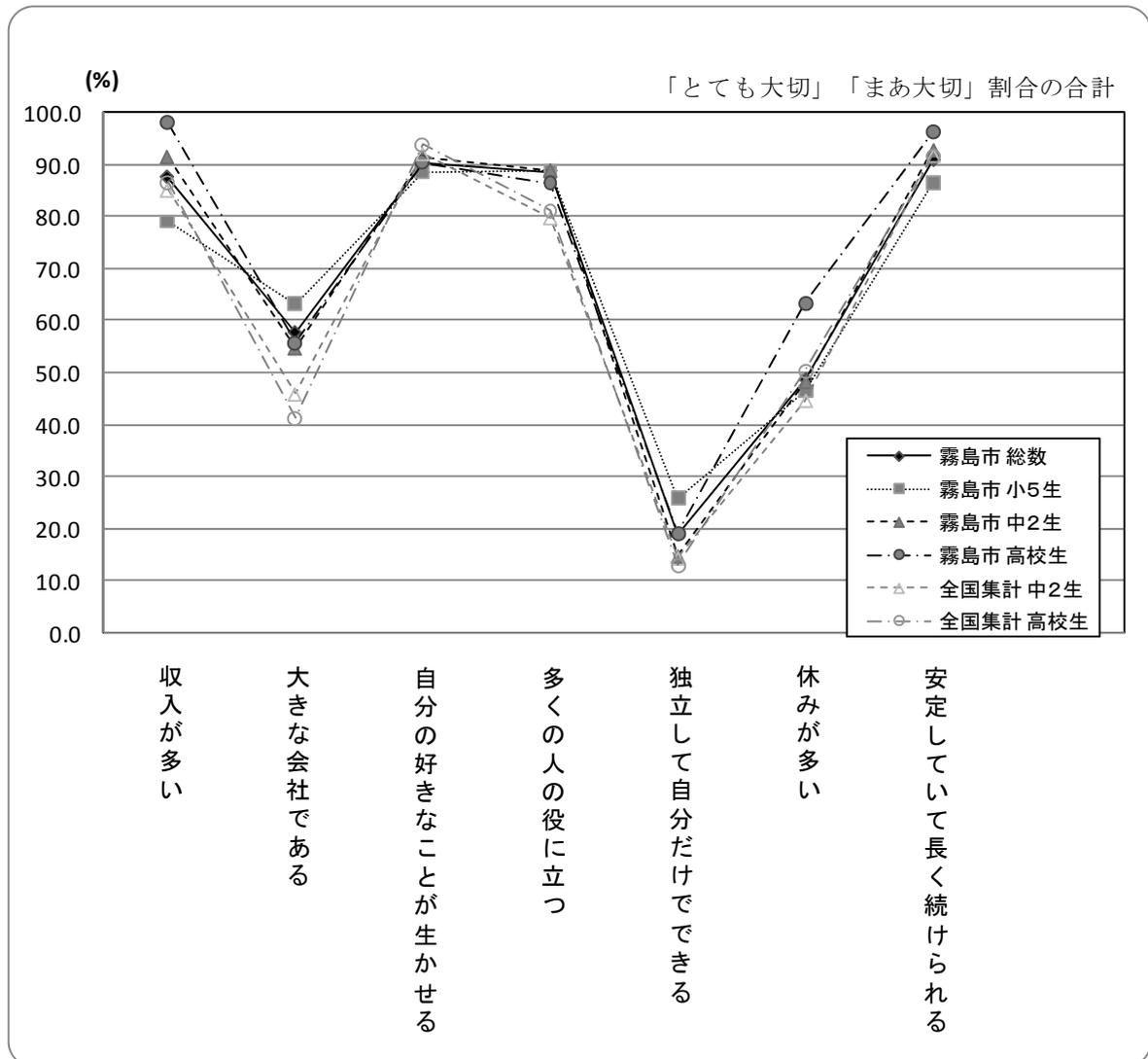
問18. あなたは、次のことについてどの程度満足していますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向にある。
 「現在の自分の成績」では、学生種別により満足度(「とても満足」「まあ満足」の合計)に開きがあり、満足度の高い小学生と満足度の低い中学生では32ポイントの開きがある。
 また、小学生及び中学生の「自分の性格」と高校生の「現在の自分の成績」の項目で本市の平均が全国平均よりも満足度が10ポイント以上高くなっている。

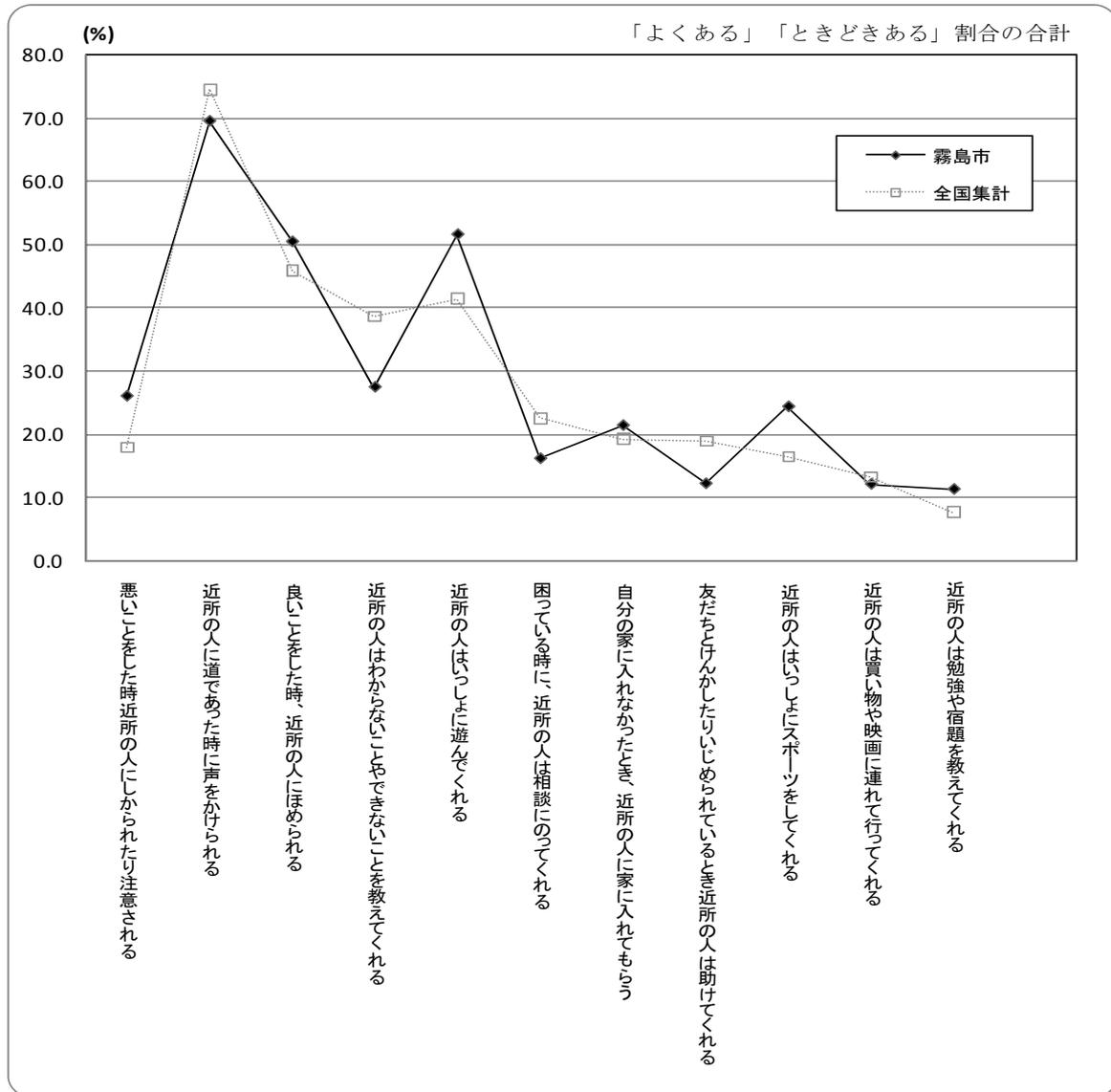
問19. 職業を選ぶとしたら、あなたは次のことをどれぐらい大切に考えますか。



* 全国平均は、「第1回子ども生活実態基本調査 2004年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向にあり、高校生の「収入が多い」「大きな会社である」以外の項目では、大切と思う割合（「とても大切」「まあ大切」の合計）は全国平均との差は10ポイント以下となっている。

問20. あなたは次のような経験がありますか。

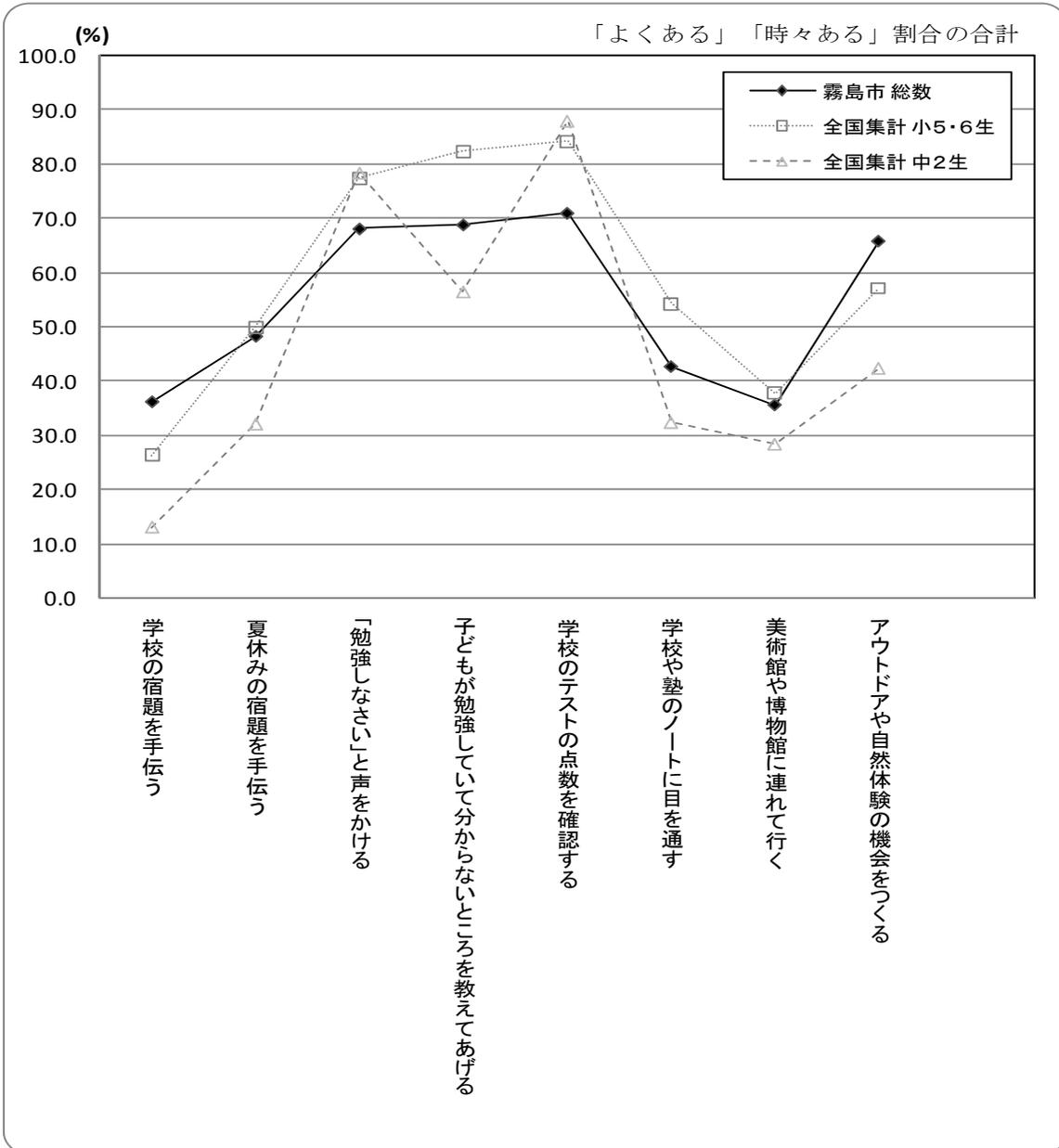


* 全国平均は、「地域の教育力に関する実態調査 平成18年」(文部科学省)による。

本市の平均は、全国平均と同様の傾向を示している。
 「近所の人に道であった時に声をかけられる」「良いことをした時、近所の人にほめられる」「近所の人はいっしょに遊んでくれる」の項目では経験がある割合(「よくされる」「時々される」の合計)が50%を超え、その他の項目では30%未満となっている。

(2) 一般市民

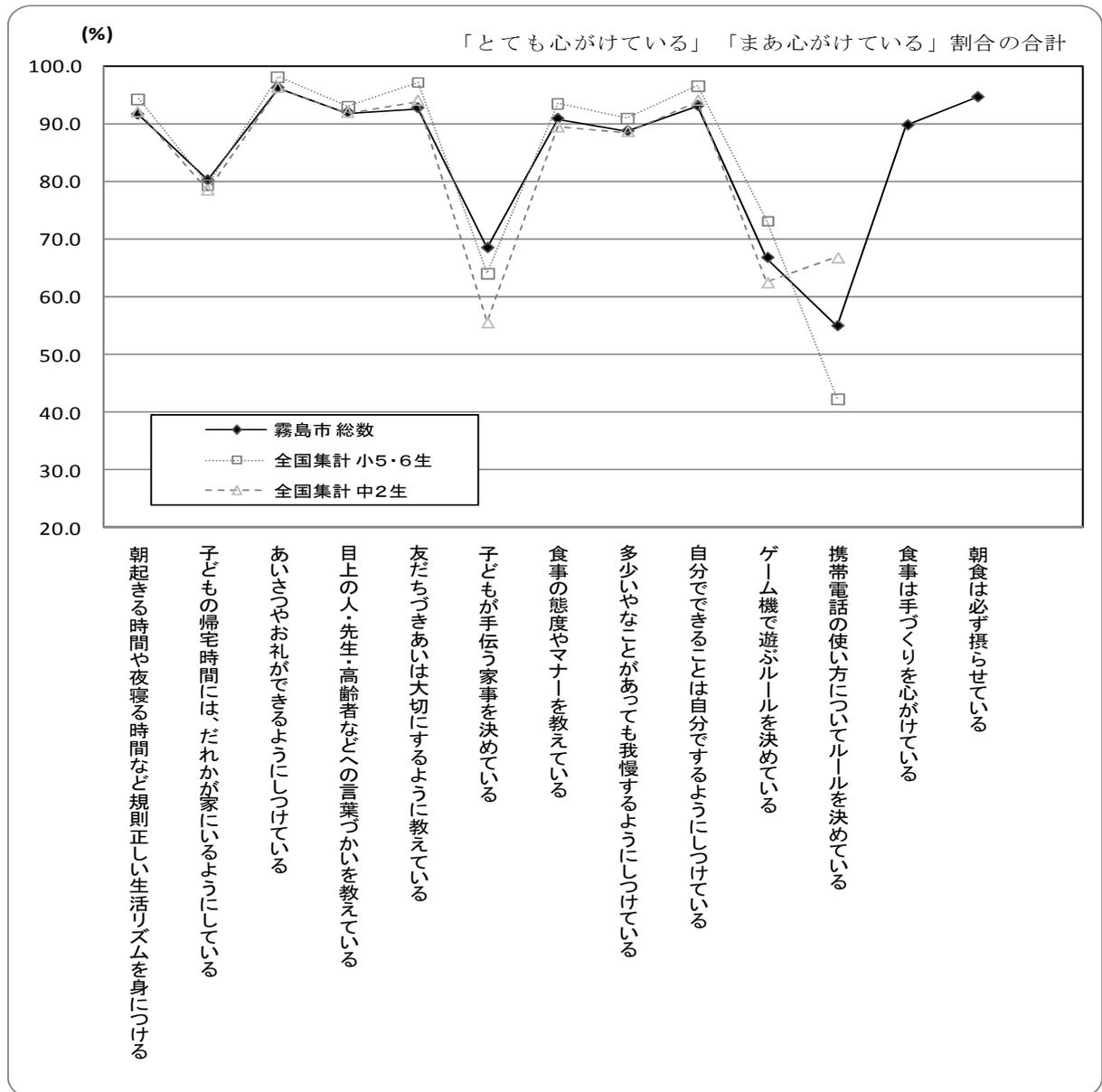
問2. あなたは子どもの学習に関して次のことがありますか。(ありましたか。)



* 全国平均は、「第3回子育て生活基本調査 2007年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は、全国平均と概ね同様の傾向を示している。
 「学校の宿題を手伝う」及び「アウトドアや自然体験の機会をつくる」の項目では、その項目がある割合(「よくある」「時々ある」の合計)が全国平均の小5・6生及び中2生を上回り、「勉強しなさいと声をかける」及び「学校のテストの点数を確認する」の項目では全国平均を下回っている。

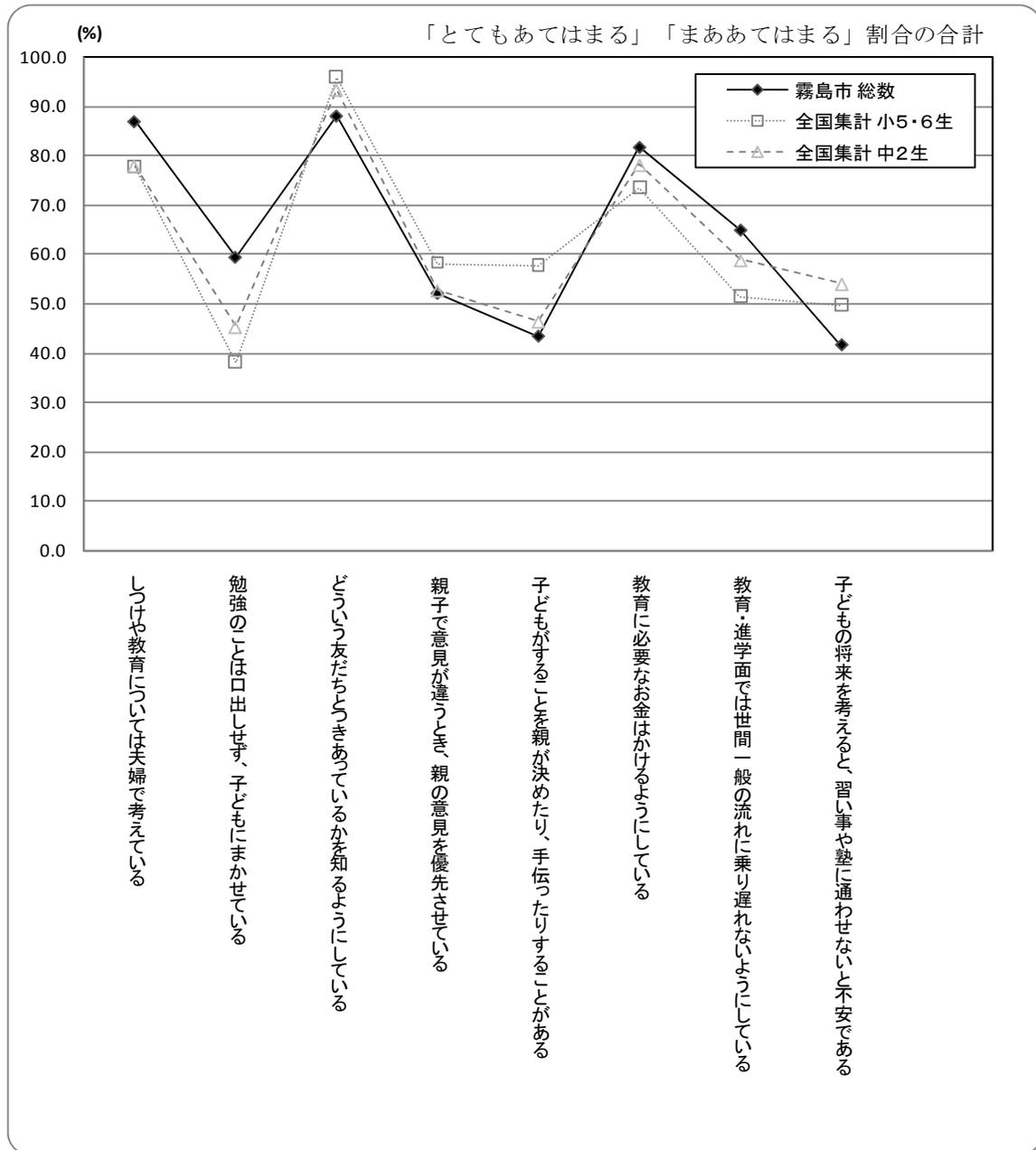
問3. あなたは子どもを育てるうえで、次のことを心がけていますか。(いましたか。)



* 全国平均は、「第3回子育て生活基本調査 2007年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は、概ね全国平均と同様の傾向を示しており、割合もほぼ同じとなっている。
 全国平均では、小学校5・6年生を持つ保護者で「携帯電話の使い方についてルールを決めている」にあてはまる割合(「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計)が低くなっているが、これは携帯電話を持たない児童が多いためと考えられる。

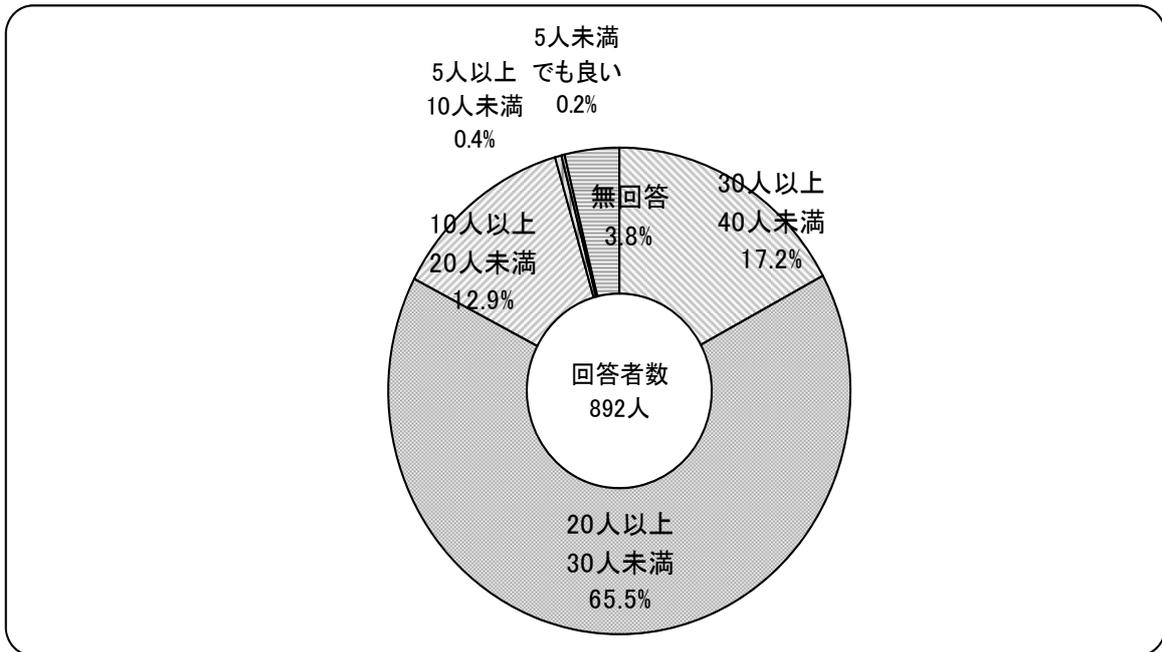
問4. 家庭教育の実態のうち、次のことがあてはまりますか。(あてはまりましたか。)



* 全国平均は、「第3回子育て生活基本調査 2007年」(ベネッセ教育研究開発センター)による。

本市の平均は、概ね全国平均と同様の傾向を示している。
 また、全国平均と比較して「勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている」にあてはまる割合(「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計)が高いなど、子どもの自主性を尊重する傾向がうかがえる。

問7. 学校教育の目標達成のためには、1クラスに何人ぐらいが望ましいと思いますか。

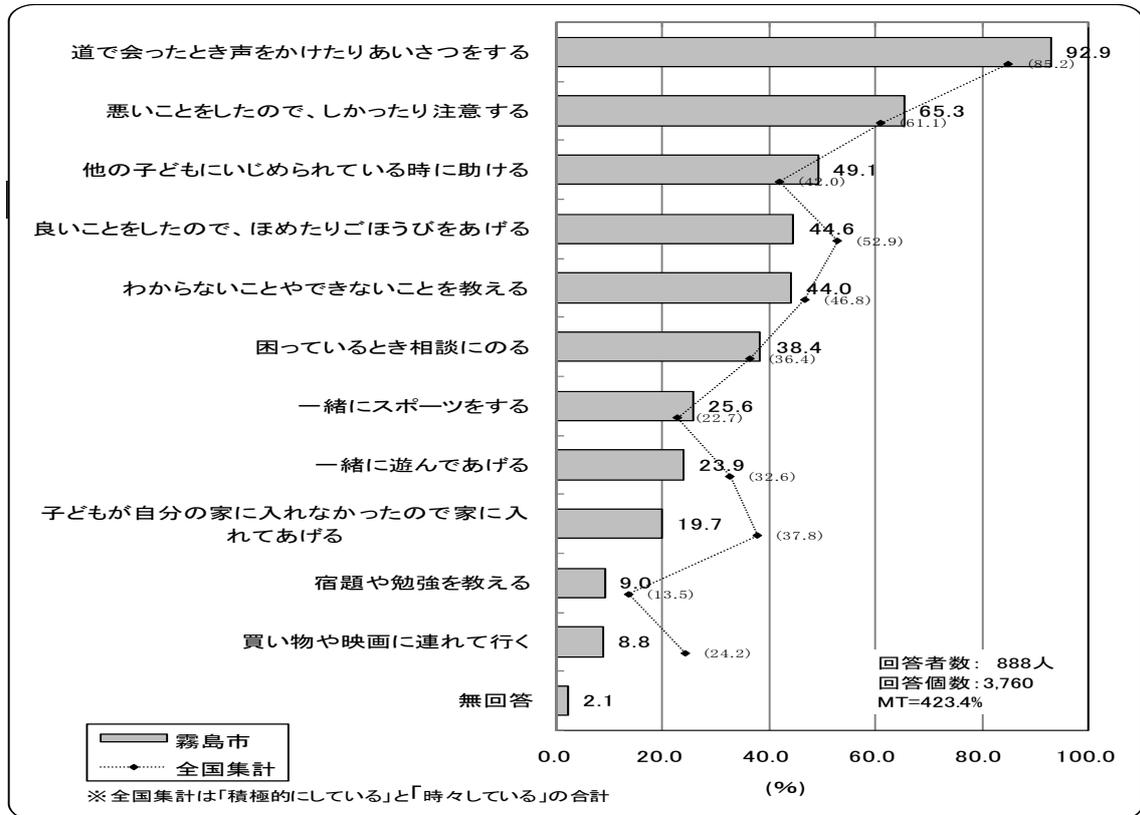


“1クラスに何人ぐらいが望ましいか”について、「20人以上30人未満」と答えた人の割合が65.5%と最も高く、次いで「30人以上40人未満」17.2%、「10人以上20人未満」12.9%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示しているが、男性では「30人以上40人未満」と答えた人の割合が2番目に高く、女性では「10人以上20人未満」と答えた人の割合が2番目に高くなっている。

年代別では、いずれも概ね同様の傾向を示しているが、30歳代及び40歳代では「10人以上20人未満」と答えた人の割合が2番目に高く、50歳以上では「30人以上40人未満」と答えた人の割合が2番目に高くなっている。

問8. あなたは地域の子どもたちとの関わりにおいて、次のことをしていますか。



* 全国平均は、「地域の教育力に関する実態調査 平成18年」(文部科学省)による。

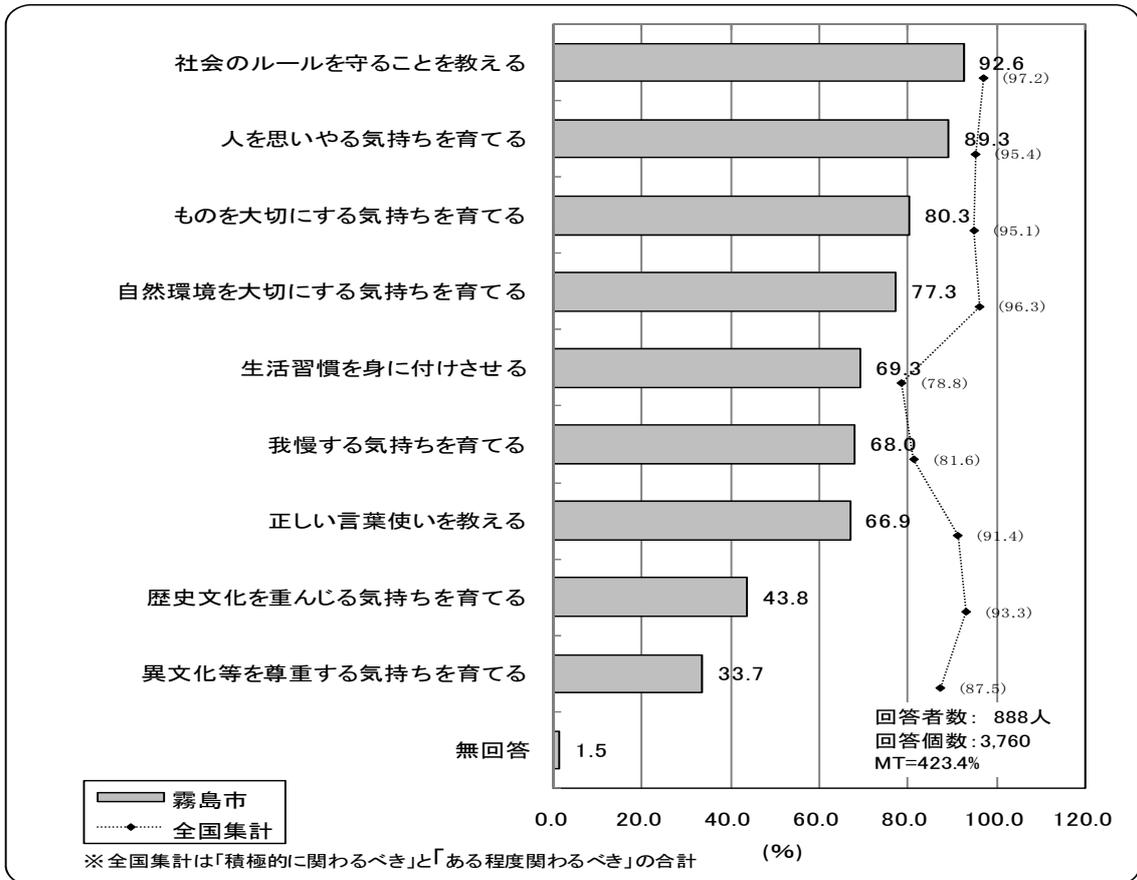
“地域の子どもたちとの関わりにおいてどのようなことをしているか”について、「道で会ったとき声をかけたりあいさつをする」と答えた人の割合(複数回答)が92.9%と最も高く、次いで「悪いことをしたので、しっかりと注意する」65.3%、「他の子どもにいじめられている時に助ける」49.1%、「良いことをしたので、ほめたりごほうびをあげる」44.6%、「わからないことやできないことを教える」44.0%となっている。(その他の項目はいずれも40%未満となっている)

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。

年代別では、いずれも概ね同様の傾向を示している。

全国集計との比較では、全国平均の「積極的にしている」と「時々している」の合計が高い項目ほど、本調査で回答数が多い傾向がある。

問9. 子どもを育てる上で、地域の関わり方はどのようなことが大切だと思いますか。



* 全国平均は、「地域の教育力に関する実態調査 平成18年」(文部科学省)による。

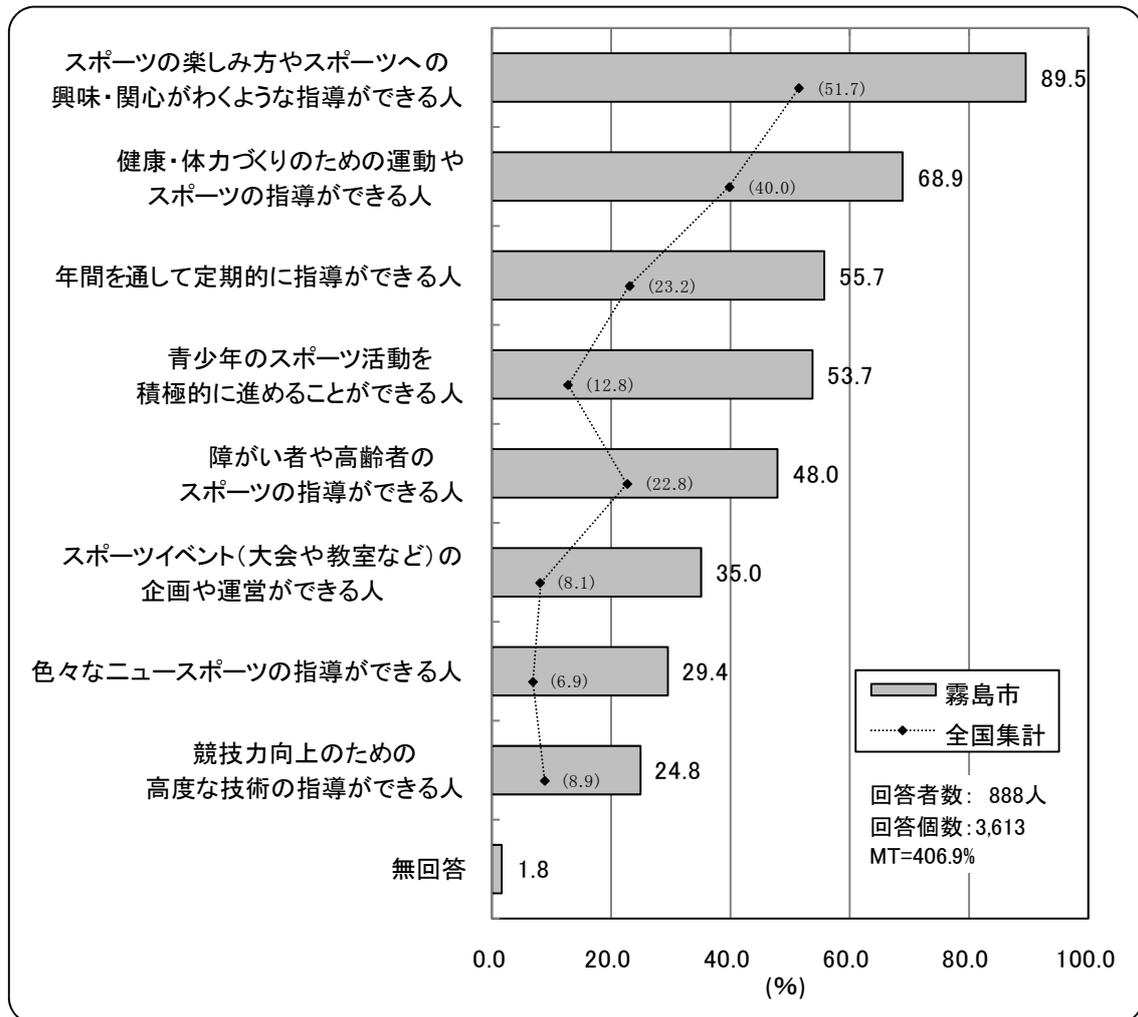
“地域の子どもたちとの関わりにおいてどのようなことをしているか”について、「社会のルールを守ることを教える」と答えた人の割合(複数回答)が92.6%と最も高く、次いで「人を思いやる気持ちを育てる」89.3%、「ものを大切にする気持ちを育てる」80.3%、「自然環境を大切にする気持ちを育てる」77.3%、「生活習慣を身に付けさせる」69.3%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。

年代別では、いずれも概ね同様の傾向を示している。

全国集計との比較では、全国平均の「積極的に関わるべき」と「ある程度関わるべき」の合計が高い項目ほど、本調査で回答数が多い傾向があるが、本市では「自然環境を大切にする気持ちを育てる」や「正しい言葉使いを教える」「歴史文化を重んじる気持ちを育てる」「異文化等を尊重する気持ちを育てる」と答えた人の割合がやや低くなっている。

問10. 運動やスポーツを行う上で、どのようなスポーツ指導者が必要だと思いますか。



* 全国平均は、「体力・スポーツに関する世論調査 平成18年」(内閣府)による。

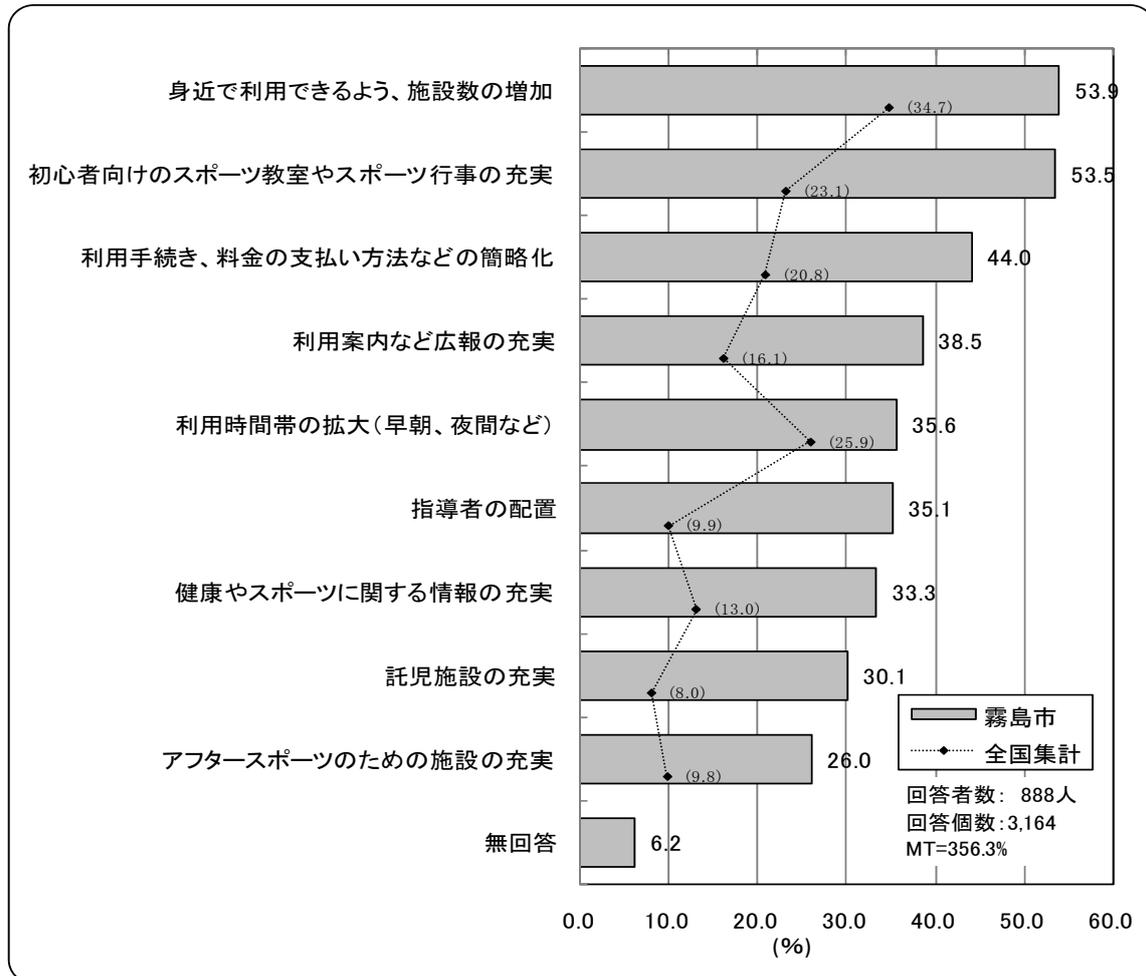
“どのようなスポーツ指導者が必要か”について、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」と答えた人の割合(複数回答)が89.5%と最も高く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」68.9%、「年間を通して定期的に指導ができる人」55.7%、「青少年のスポーツ活動を積極的に進めることができる人」53.7%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。

年代別では、いずれも概ね同様の傾向を示している。

全国集計との比較では、本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向を示している。

問 1 1. 体育館、プール、テニスコートなどの公共スポーツ施設に望むことがありますか。



* 全国平均は、「体力・スポーツに関する世論調査 平成 18 年」(内閣府)による。

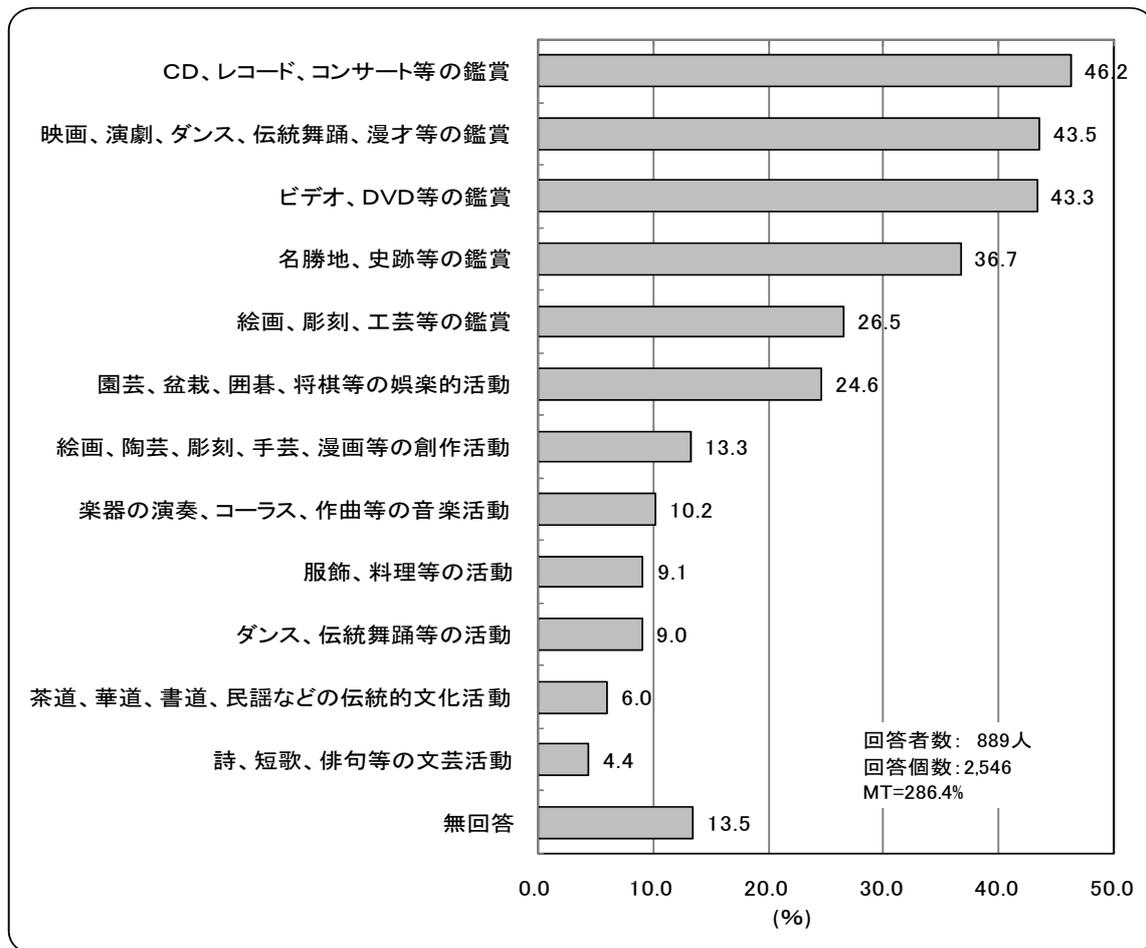
“体育館、プール、テニスコートなどの公共スポーツ施設に望むこと”について、「身近で利用できるよう、施設数の増加」と答えた人の割合(複数回答)が53.9%と最も高く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」53.5%、「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」44.0%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。

年代別では、30歳代及び40歳代は「身近で利用できるよう、施設数の増加」と答えた人の割合が最も高く、50歳以上は「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」と答えた人の割合が最も高くなっている。

全国集計との比較では、本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向を示しているが、全国平均では「利用時間帯の拡大(早朝、夜間など)」と答えた人の割合が2番目に高くなっている。

問13. この1年間でどのような文化芸術鑑賞や文化芸術活動を行いましたか。

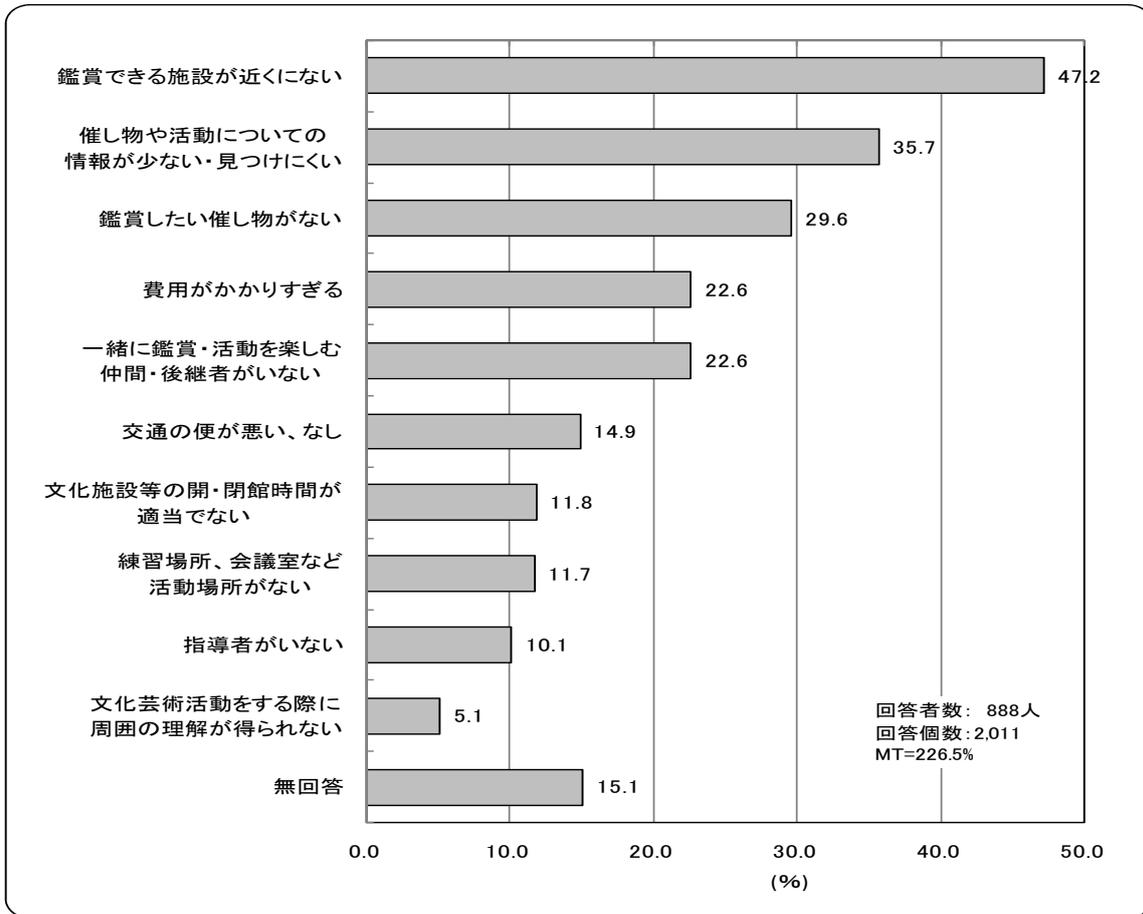


“この1年間でどのような文化芸術鑑賞や、文化芸術活動を行いましたか”について、「CD、レコード、コンサート等の鑑賞」と答えた人の割合（複数回答）が46.2%と最も高く、次いで「映画、演劇、ダンス、伝統舞踊、漫才等の鑑賞」43.5%、「ビデオ、DVD等の鑑賞」43.3%となっている。

性別では、女性は市平均と同様の傾向にあるが、男性は「名勝地、史跡等の鑑賞」と答えた人の割合が最も高くなっている。

年代別では、年代により上位となっている項目が異なっており、若い世代ではCDやDVDの鑑賞などの項目が上位となっており、60歳以上では名勝・史跡の鑑賞や園芸・囲碁等の活動などの項目が上位となっている。

問14. あなたが文化芸術鑑賞・活動を行う上で支障となっていることは何ですか。

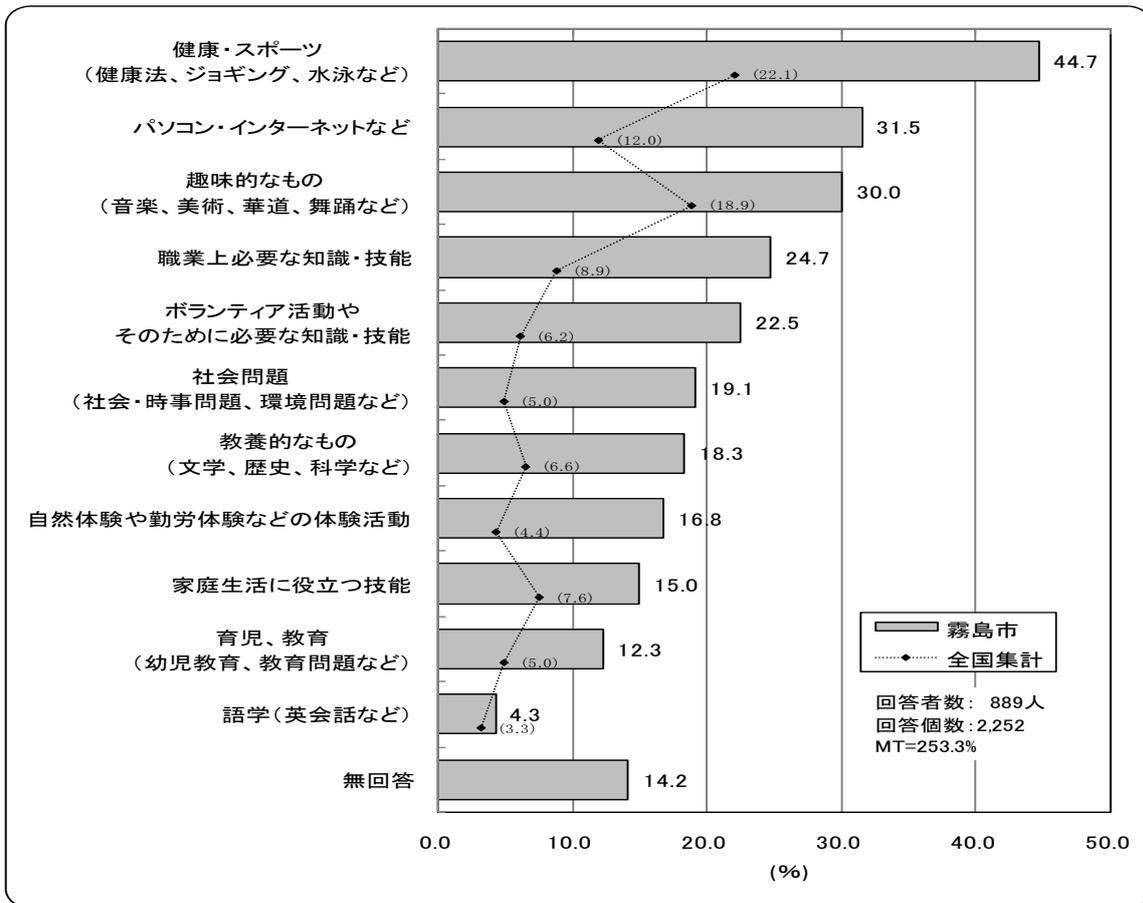


“文化芸術鑑賞や文化芸術活動を行ううえで支障となっていることは何ですか”について、「鑑賞できる施設が近くにない」と答えた人の割合（複数回答）が47.1%と最も高く、次いで「催し物や活動についての情報が少ない・見つけにくい」35.7%、「鑑賞したい催し物がない」29.6%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示している。

年代別では、いずれも概ね同様の傾向を示している。

問16. あなたはこの1年間に次のような学習活動をしましたか。



* 全国平均は、「生涯学習に関する世論調査 平成17年」(内閣府)による。

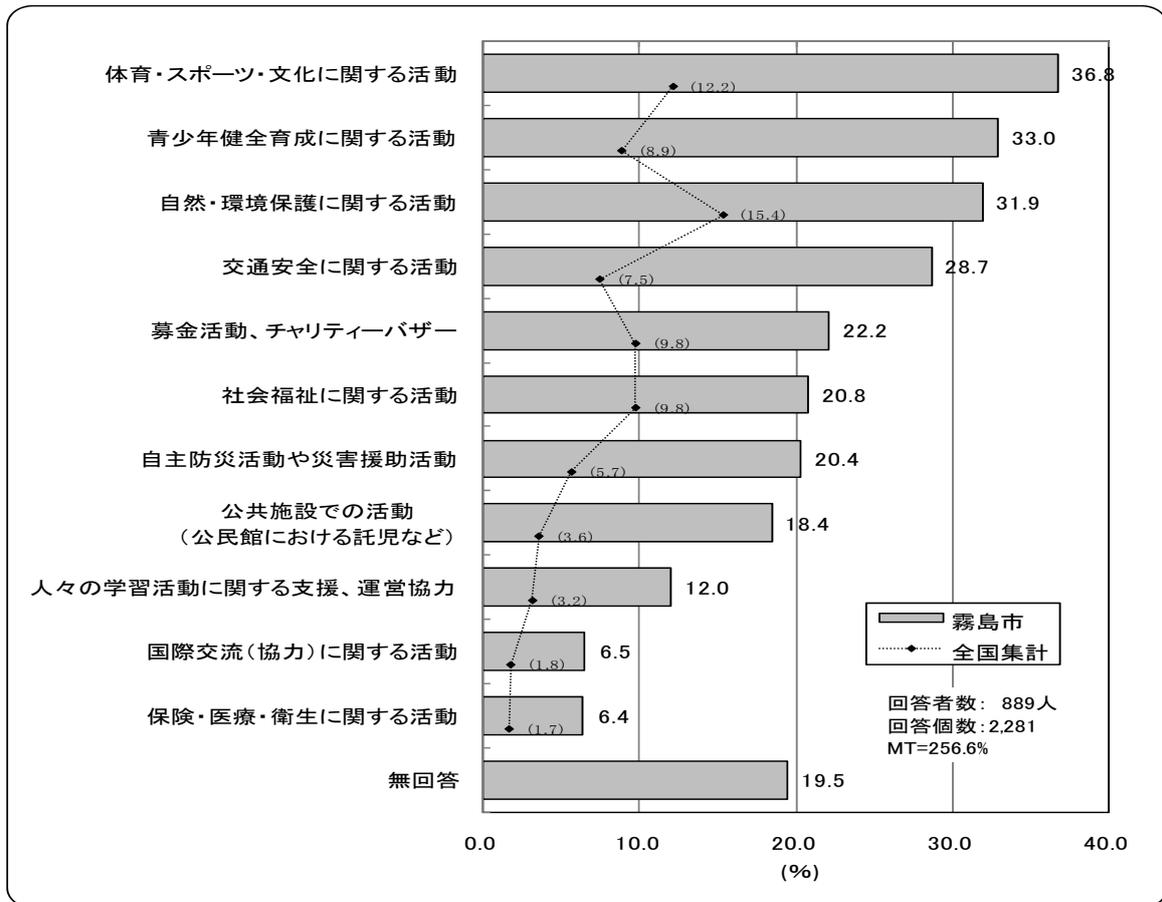
“この1年間に次のような学習活動をしたか”について、「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」と答えた人の割合(複数回答)が44.7%と最も高く、次いで「パソコン・インターネットなど」31.5%、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊など)」30.0%となっている。

性別では、男女とも「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」と答えた人の割合が最も高くなっているが、その他の項目は回答が分かれている。

年代別では、いずれの年代も「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」と答えた人の割合が最も高くなっているが、その他の項目は回答が分かれている。

全国集計との比較では、本市の平均は全国平均と概ね同様の傾向を示している。

問17. あなたは、これまでに次のようなボランティア活動に参加したことがありますか。



* 全国平均は、「生涯学習に関する世論調査 平成17年」(内閣府)による。

“これまでにどのようなボランティア活動に参加したことがあるか”について、「体育・スポーツ・文化に関する活動」と答えた人の割合(複数回答)が36.8%と最も高く、次いで「青少年健全育成に関する活動」33.0%、「自然・環境保護に関する活動」31.9%となっている。

性別では、男女とも概ね同様の傾向を示しているが、男性は「体育・スポーツ・文化に関する活動」と答えた人の割合が最も高く、女性は「青少年健全育成に関する活動」と答えた人の割合が最も高くなっている。

年代別では、60歳代を除き「体育・スポーツ・文化に関する活動」と答えた人の割合が最も高くなっているが、その他の項目は回答が分かれている。

全国集計との比較では、全国平均で下位の項目は本市の平均でも下位にあるが、上位・中位の項目は順序が異なっているものが多い。